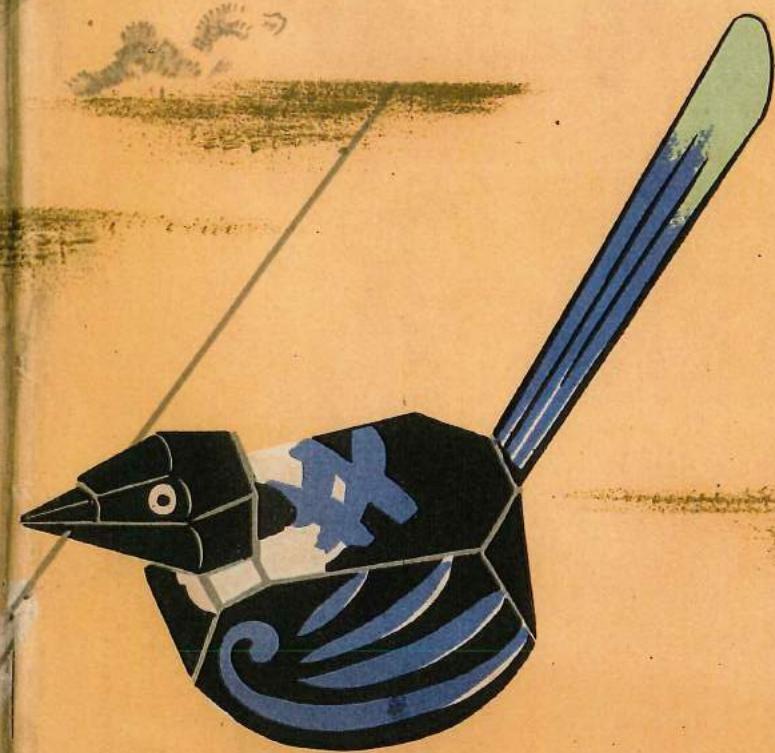


史都佐賀の  
觀光讀本

本



漢文



編會協光觀市賀佐

史都佐賀の  
觀光讀本





## 目

次

一、葉隱の由来

二、柿の由来

三、佐賀市の概念

四、佐賀市の交通

五、市内の観光地

六、市内観光コース

七、郊外への観光コース

八、県下の名勝地

九、石橋——水郷川上——春日御墓所——縣社川上神社——實相院——石神群

十、玉林寺——寶塔山——熊の川温泉——古湯温泉

十一、基肄城址

十二、縣社仁比山神社

一一一

一一二

一一三

一一四

一一五

一一六

一一七

一一八

一一九

一一一

一一二

一一三

一一四

一一五

一一六

一一七

一一八

一一九

一、蓮池公園

公園

四四

四六

一、金立山

——北山正現獄——山本常朝先生垂訓碑

四八

五一

一、諸富リフト式鐵橋

四六

四七

一、俊寛僧都の遺蹟

五

——田島神社

五七

一、武雄温泉

——櫻山公園——御船山——萩の茶屋

五九

六一

一、黒髮山

——有田燒窯元——陶祖李參平の碑

六二

六三

一、伊萬里町

——七ツ島——松浦富士

六五

六七

一、嬉野溫泉

——大草野營——嬉野茶園

六八

七八

一、祐德稻荷神社

——旭ヶ岡公園——多良嶽

七〇

七八

一、名產

と名物

七二

一二

一、娛樂機

關

七七

一二

一、旅館と料亭

七七

一二

一、佐賀宣傳小唄

葉隱行進曲

——佐賀はよいとこ——佐賀小唄——佐賀行進曲——梅ぼし——蓮池節

七二

一二

一、佐賀の高い山

## 葉隱の由來



佐賀と云へば葉隱を聯想される。殊に日支事變後昭和の典型的武人古賀聯隊長・空閑少佐等の輩出に依つて一躍佐賀の『葉隱精神』と云ふものに對して注目される様になつた。『葉隱精神』とは葉隱論語に發祥したもので葉隱精神とは即ち日本精神、所謂武士道を郷土的な事例を擧げて鼓吹したもので、これは元祿、享保の頃鍋島藩士石田一鼎、山本常朝先生等の説述を田代陣基先生が集録したもので俗にこれを『鍋島論語』と呼び佐賀藩士はこれを以つて武士道の鑑として學んだものである。

葉隱は今を去る二百二十年前（昭和十一年より起算して）中御門天皇の御代享保元年に書かれたもので、筆者は佐賀藩士田代陣基でこれより先き、元祿十三年五月十六日鍋島藩主光茂公逝去の時光茂公に九歳の時から御側勤めであつた山本常朝（時に四十二歳）は殉死する筈であつたが當時殉死を禁じられてゐたので剃髪して佛門に歸依し、佐賀郡金立村黒土原に草庵を結んで隠遁した。其後十年を経て寶永七年三月この草庵に田代陣基が常朝を訪れてその談話を中心に編纂したのが即ち『葉隱十一

卷』である

×

×

佐賀藩に於ける殉死禁制は寛文元年七月で光茂三十歳の年に始まつてゐるが、佐賀藩が殉死禁制後翌寛文二年には紀州家でも、佐賀藩の殉死禁制を知る處となり紀州大納言光貞卿も殉死を嚴禁したが、更らに亦幕府でもこれを採擇してその翌年寛文三年國禁として廣く殉死を禁じるに至つた。當時日本に於いて殉死を最初に禁止したのは實に吾が佐賀藩であつたのである。

葉隱の關係者として有名なのは石田一鼎、山本常朝、田代陣基の三名で、普通石田一鼎を葉隱の鼻祖と稱え、これに山本常朝、田代陣基を加へて「葉隱三哲」と稱してゐる。常朝は石田一鼎に師事し深くその感化を受け一鼎の著『武士道要鑑抄』は葉隱の基礎を成したものと見られてゐるが、今一人見逃せないのは湛然和尚でこれは常朝が佛道の師でありその説く處が葉隱の根幹を培つてゐるので湛然和尚を加へて『葉隱四哲』と稱するのが一層適切である。

更らに廣い意味では龍造寺、鍋島を通じた所謂鍋島武士の傳統的精神が凝つて葉隱全巻を生み出し

たとも謂へるのである。

×

×

葉隱の神髓である根本精神を一口に説明すれば『忠』の一字である。葉隱の綱領として有名な四誓願とは

- 一、武士道におくれ取り申すまじき事
- 一、主君のため御用に立つべき事
- 一、親に孝行仕るべき事
- 一、大慈悲を起し人の爲になるべき事

四ツの綱領の中心は忠節であり、武士道も孝行も慈悲も皆忠節を盡すための德目であるとされ『忠、孝、仁、義』の四綱領を神佛に念じて成し遂げると云ふ處に宗教的、信仰的なこの一点が一層葉隱を價値つけると云ふことが出来る。要は『諸人一和』してお家の爲めを圖れ、家を堅めよ、と云ふのが葉隱精神の骨子である。葉隱にこの『和合』の精神を高唱してゐる事を見逃してはならない。

×

×

佐賀人は二百餘年の間この綱領に鍛はれ、これに培はれて來たものである。大隈重信侯、佐野常民伯、副島種臣伯、大木喬人伯、江藤新平、島義勇兩先生等明治維新の大業に翼賛した偉人、英傑、近くは滿洲國の礎となつて北滿の地に客死した武藤元帥、日支事變に於いて壯烈鬼神をも泣かしめる悲壯の最後を遂げた古賀聯隊長、空閑少佐、爆弾三勇士江下伍長等、總てこの靈廟と受けたものである。

## 楠の都

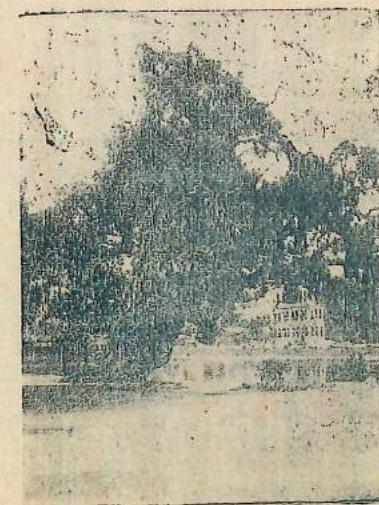
佐賀地方は古來から楠の繁殖に適してゐる事は文献上にも現はれてゐる。吾國最初の文献とも云ふべき肥前風土記には、日本武尊が九州へ御下向の砌り佐賀の地を御通過あらせられた際、楠の繁茂してゐる様を御覽遊され『榮の國』と命名し給ふたので其後『榮郡』と稱してゐたが、年を経て轉化し『佐嘉』と呼び『佐賀』と稱するに至つたものであると傳えられ現今尙『榮城』の名が遺つてゐる程度、佐賀の地名と因縁の深い樟樹は縣下至る所に大樹が見受けられ楠の產地としては日本產地の五指

に加えられてゐる。

佐賀市に足を入れた旅人は先づ小川の清きの流れに添ふた神社、佛閣等の境内、住宅の空地等に楠の大樹を見受け、綠に掩はれた森の都の落ついた舊城下街らしい氣分にひたり『楠の都葉がくれの佐賀』に對して云ひしれない懷しみを、ゆくりなく感じせしめるであろう。

殊に晩春から初夏の頃楠の若葉に風薰り青葉若葉が目に沁みる様に映ゆる頃、常盤樹の男性美に配するに女性的な柳の糸に翼交すつばろくの風情は「楠の都佐賀」が持つ、なつかしい街頭風景である。

×  
×



縣 嘉 前 の 大 楠

全縣に亘つて老樟樹多く杵島郡川古村の大樟樹は天然記念物に指定され佐賀市内でも牛

島天満宮、與賀神社、松原神社、縣立病院好生館、招魂社等の境内を初め縣廳前等の樟樹は根廻り十尺から六十尺余あり高さも四十尺から七十尺位の老樹が二十株以上もある。佐賀市では樟樹の古木保存と楠の生産事業とを目指し、毎年壹萬株餘の楠苗を福岡專賣局より無償配布を受け楠の植林を行ふてゐるが現在縣下に於ける楠の產出は全國でも有數であるので市では目下專賣局の樟腦收納所誘致に猛運動を續けてゐる。

### 佐賀市概念

鍋島三十五萬七千石の城下として明治維新以來、過ぐる日支事變に至る迄幾多の偉人、傑士を輩出した『葉隱佐賀』の赫々たる偉名を全國に轟かした吾が佐賀市は、肥筑平野の西南部に位し海にも山にも遠く隔たり地勢は平坦で周囲は幾多の村落に取り囲まれ東西、南北何れも五キロ餘に亘り戸數九千餘戸、人口五萬五千を有し佐賀縣下に於ける政治、經濟、交通の中心地で、四圍農村に囲まれてゐる關係上農產物集散地として發達して來たが、近時產業振興に對する市民の熱意物凄く農村都市の舊殼を脱し

て「產業都市」一大佐賀の建設に發効たる動きを見せ商業、工業振興會の結成によつて積極的な指導に當り近代都市佐賀の充實を圖り、都市計劃の進捗に伴ひ道路網の完成水道の完備、交通系統の整美、充實等、總ゆる角度から近代都市佐賀の形態の完備を急ぎ年と共に面目を一新してゐる。

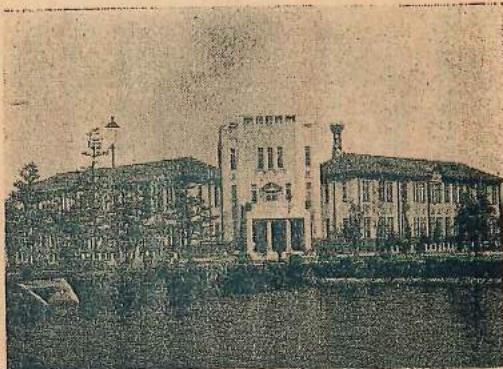
產業佐賀の建設に肥筑を結ぶ國鐵佐賀線の開通と、五年の歲月と九十萬圓の巨費を投じて今春完成した延々五キロに亘る九州第一を誇る觀光道路——東西貫通道路は一段の明朗色を授げこれに伴ひ市道も年々整備されて日に月に面目を一新してゐる。

×

×

佐賀の地は由來精神文化發祥の地として古くから知られてゐるが、幕末の頃の舊藩主鍋島直正（閑

舍 廳



... 7 ...

... 6 ...

叟公)は英邁の聞え高い一代の名君として知られてゐるが、他藩に率先して門戸を開放し大いに西洋文化の輸入に力を注ぎ大砲の鑄造、化學試驗所たる精鍊所の設置等の外軍艦建造等を初め日本醫學史上に特筆すべき種痘の輸入等は皆名君閑叟公の遺業でその他人材の養成にも、大いに力を注ぎ維新の大業に翼賛した世界的大偉人大隈重信侯、江藤新平先生、大木喬仁伯、副島種臣伯等の諸先輩、或は帝國海軍の基礎を固め晩年赤十字社の創設に功勞あつた佐野常民伯の輩出は皆『葉隱論語』に培はれ名君閑叟公の熏陶を受けたものである。

### 佐賀市の交通

佐賀市内の交通は十月初め御目見得した市營バスと佐賀電氣軌道株式會社のバスに依り市内の交通を便ならしめてゐるが、其他佐賀市を中心として放射線状に發達した乗合自動車により近郷との交通を便ならしめてゐる。市營バス及び佐賀電氣軌道株式會社の路線並に近郷に通じる乗合自動車路線は左記の通りである。

### 市營バス路線

中央 東 線 || 佐賀驛より市役所前。縣廳前を経て。成美高女前——師範角より城南橋へ至り。水ヶ江横小路より片田江。東部道路を北上して佐賀驛に至る。

佐 高 線 || 佐賀驛より市役所前を西に貫通道路より與賀町を経て佐高前に至り。全所より招魂社前に出で中ノ小路を東へ勧銀前より左曲して佐賀驛に至る。

吳 服 町 線 || 佐賀驛より勧銀前を西に中ノ小路。東魚町を経て南へ佐嘉神社前より市役所。勧銀前をS型に廻り東魚町、吳服町を経て蓮池町角より北上して佐賀驛に至る。

中央 環 線 循 || 勸銀前を西に中ノ小路、六座町、八戸町、清和女學校前を過ぎ、辻ノ堂より貫通道路を東に材木橋に至る。

東西貫通 東 線 || 佐賀驛より唐人町を経て市役所前を東へ材木橋を経て構口を終点とする往復線。

東西貫通 西 線 || 佐賀驛より唐人町を経て市役所前を西に貫通道路を過ぎ八戸町を経て高橋を終点とする往

復路線

東北線 || 佐賀驛より東部道路を経て取引所前より新馬場に出て、佐嘉神社前より市役所前を北上し勧銀前より西に中ノ小路を経て、中町より多布施堤を昭和橋に至り、神野町より佐賀驛へ至る市外廊の循環線。

金 || 一區三錢 || 二區五錢 || 三區七錢 || 四區以上十錢均一

### 佐賀電氣軌道路線

諸富線 || 佐賀驛より唐人町を經て市役所前より貫道路、新馬場、水ヶ江を經て諸富港に至る往復路線。

佐高循環東廻り線 || 佐賀驛より唐人町を經て市役所、縣廳前、成美校前を經て師範校前を西に佐高前に至り、與賀町より西部道路を北上して佐賀驛に至る。

佐高循環西廻り線 || 佐賀驛より西部道路、與賀町を經て佐高に至り師範前より成美校、縣廳前を經て縣廳通り、唐人町を北上して佐賀驛に至る。

厘外線 || 佐賀驛より東部道路を南下し、取引所前、新馬場を經て貫道路を西に辻ノ堂より與賀町、清祖元町を經て厘外に至る。

川上行き電車 || 神野町踏み切り横より水郷川上に至る電車。

料  
金 || バス、電車共に一區三錢 バス料金は市營バス料金に同じ

其他佐賀市より近郷へ放射線状に走る乗合自動車路線の主なるものは左の通りである。

全	古 唐 津 線	路 線 名	一 起 点	コ ー ス	料 終 点 迄 ノ
全	佐 賀 驛	佐 賀 驛	佐 賀 驛——川 上——熊 ノ 川——古 湯	五 十 錢	料 終 点 迄 ノ
佐 賀 驛——新 馬 場——久 保 田——小 城——	佐 賀 驛——川 上——古 湯——七 山——	壹 圓 拾 錢			
佐 賀 驛——新 馬 場——久 保 田——小 城——	佐 賀 驛——川 上——古 湯——七 山——	壹 圓 拾 錢			

久留米線	佐賀神埼—三義基—久留米	七十錢
祐德院線	佐賀驛—久保田—牛津—山口—秀津 佐賀驛—鹿島—濱—祐德院	八十錢
武雄線	新馬場—新馬場—久保田—山口—北方	二十五錢
嘉瀬新村線	佐賀驛—市役所前—貫通道路—高橋 佐賀驛—今津—相應津—嘉瀬—新村	三十錢
相應津線	佐賀驛—東部道路—取引所—新馬場 貫通道路—佐高前—東與賀村—作土居	三十五錢
東與賀線	佐賀驛—市役所—貫通道路—佐高前	二十錢
全	佐賀驛	七錢

◆-----其他市近郊西船津、廣江、小々森、大井道、早津江、蓮池町、寺井、神埼方面へ至る乗合自動車はこれらも佐賀驛を起点として十五分又は十分毎に發車してゐる。

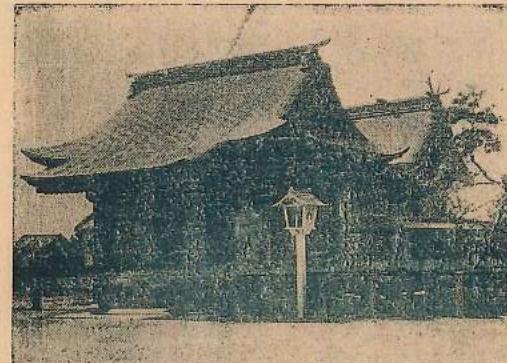
#### 貸切自動車

- ◆晝間 || 一回使用市内 金五拾錢 △往復 金壹圓(但し途中下車一回に付き拾錢増し)
- ◆夜間 || (午前二時より同五時迄) 一回使用 金八拾錢 △往復 金壹圓五拾錢
- ◆時間待ち半時間毎に 金五拾錢
- ◆一時間貸切 || 金貳圓(時間経過後は半時間毎に壹圓増)
- ◆半日貸切 || 金拾貳圓(五時間 || 四十哩以内)
- ◆壹日貸切 || 金貳拾圓(十時間 || 八十哩以内)
- ◆佐賀市附近自動車業者は商業組合を組織して自動車料金を統一してゐるので若し乗者客で不當の料金と思はれる場合は運転手へ統制貨銀表の提示を求めるか又は、組合事務所(市役所勸業課内)電話二番又は六百番へ問合せて後料金を支拂はれる様願ひます。

## 市内の觀光地

### 楠公神社

(市営バス楠公神社前下車)



松原町八幡小路にある。祭神は南朝の忠臣楠公父子楠正成、楠正行で我國で最初に楠公父子を祀つた由緒ある神社である。後西天皇御宇寛文二年藩主鍋島光茂公の時、藩士深江信溪は、

『さばかりの名將のため寺をも建てず堂をも作らず誦經念佛する人もなく、空しく三百餘年を送る。淺ましきにあらずや』と慨嘆し楠公父子の櫻井驛訣別の像を京都の佛師法橋宗南に託して彫刻させ、同三年五月竣工したので佐賀郡北原（春日）村、永明寺に之れを祀つた。これ水戸光圀の湊川

建碑（元禄五年）に先き立つ事二十九年前、今を去る二百七十三年（昭和十一年より）前に當り實に吾國最初の事でこれが費用は淨財の寄捨に依り奉加帳の初筆は藩主光茂公で其他家老以下家中男女法師に至る迄三百餘名の寄捨があつた。天明の頃破損のまゝとなつてゐたのを文化十年から三年を費して十三年八月竣工したので高傳寺の末寺、本庄村梅林院に安置してゐたが明治十八年現在の所に移し、同三十二年の秋明治天皇の御名代として小松宮彰仁親王御成の時、佐賀驛に設けた御休憩所を移して拜殿としたが、何時の頃からか祭典が廢絶してゐたので大正十四年故陸軍大佐堤清氏が嘉永の頃先輩が起した義祭同盟の主旨を繼承し、現在の楠公會を結成した。古今の忠臣大楠公父子を全國に魁けて祀つた郷土先輩の行爲は實に傳統的な忠勇の縣民性を物語るものである。

### 八幡神社 (市営バス楠公神社前下車)

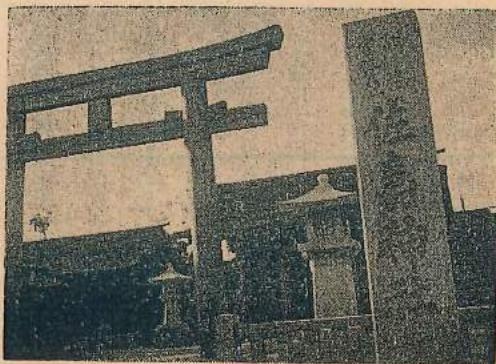
松原町八幡小路楠公神社境内にあり郷社で祭神は應神天皇、天兒屋根命、住吉神を合祀し、建久年間龍造寺季益が鶴岡八幡宮の分靈を勧請した社で龍造寺、鍋島兩家の崇敬も亦厚かつた。昔は社の後に

放生池があつて毎年八月十五日盛んな放生會を行つてゐた。

別格官幣社 佐・嘉・神・社

(市營バス佐嘉神社前下車)

貫通道路に面した市役所より東へ一丁半の所にある祭神は幕末の頃、名君の聞え高かつた鍋島直正(閑叟公)で昭和八年九月貳拾參日縣社松原神社より遷座されたもので、社殿は工費參拾萬圓を投じて約三ヶ年の歳月を費して竣工した。列格奉告祭には勅使が参向した。祭神鍋島閑叟公の功績は枚舉に遑ないが、勤王の志厚く亦明治維新前の新興日本建設の礎を成した帝國海軍の發祥も閑叟公が市外早津江に設けられた海軍所にその端を發して居り、その他大砲鑄造、化學試験の精鍊所を設置して國防に資する處多く、更に長崎港の警備に當り西洋文化を日本に輸入した、また醫學上にも貢献する處多く、種痘の如きも閑叟公が初めて輸入されたものである。其他人材の養成に力を注がれた、明治維新の大業を翼賛した江藤、大隈、大木等を初め佐野常民等も英邁の藩主閑叟公の薰陶を受けた人々である。閑叟公のこの新興日本の文化建設への功勞と尊王の大義が朝廷に聞え別格官幣社に列せられたもの



佐 嘉 神 社

である。鍋島閑叟公が長崎港外深堀の神島に防備の砲臺を築いた時詠んだ歌に

君のため國のためとて一筋に

つくす心は知る人ぞ知る

とある。公がその尊王の精神が窺はれる。

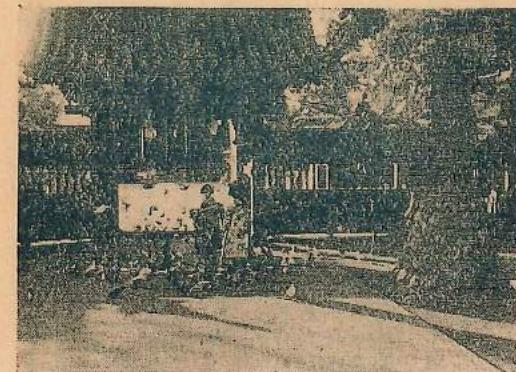
文武の神として市民の崇敬厚く、白木檜木造の社殿の豪莊さは社前の道を隔てた佐賀城濠と對峙して典雅な情趣を點綴してゐる、社前を東西に貫通してゐるモダンな貫通道は又九州に誇る觀光道路で、社前より市廳舍前城濠を取り入れた此の一帯を風致區域に指定しあ濠側には斜面を設けて綠の地帶を設け柳を植樹し歩道には公孫樹の並木を配して清新の氣あふれるモダンな道路に、落つきのある雅致を見せ觀光道路たる麗容を整えてゐる。

## 縣社 松原神社

(市營バス佐嘉神社前又ハ松原社前下車)

松原町新馬場にある。俗に「日峰さん」と稱し隣合せの別格官幣社佐嘉神社と引きつき春秋二回の祭典が執行され、各地よりの參拜者殺倒し大賑ひを呈する。社殿は南殿、中殿、北殿の三つに分れ、南殿には鍋島直太公、中殿には藩祖鍋島直茂公及び夫人、同清久、同勝直公の四人、北殿には鍋島藩祖直茂公が仕へた戦國時代九州に於いて霸を唱へた智勇兼備良將龍造寺隆信公、その子孫政家、高房公の三人を祀つてある。明和六年先づ佐賀郡小川村(春日村)に祀つた龍造寺一門の敷山社をこの地に遷して鍋島直茂公と合祀し、南殿は明治六年十月、士民が英主閑叟公(直正)

松原神社



... 18 ...

の道德を欽仰し社殿を造營してこれを本社とし從來の社は攝社となしたが大正十二年に故直太公を本社に合祀、昭和八年九月二十三日閑叟公は佐嘉神社へ遷座された。

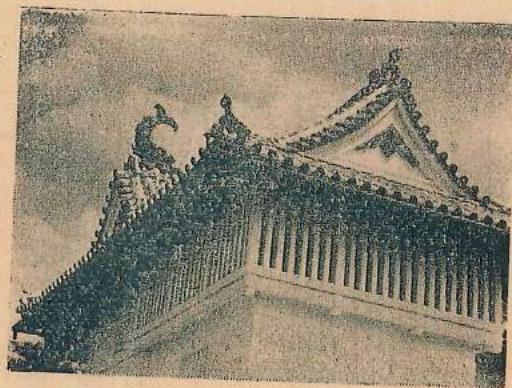
境内には老樟數株がこんもりと松原川の清流に枝を垂れて清流を覆ひ松原川の清流には鯉を放つて風致を添えてゐる。隣りの檜木造りの壯嚴な佐嘉神社の社殿と古色蒼然とした松原社とは市の中央に相並んで佐賀市の名所として唯一のものである。

寶物刀劍 || △太刀 銘來國光 一振、△脇差 銘國廣鎌倉住人文保二年二月日 || 一振は大正十四年四月

國寶に指定された。何れも鍋島直茂公寄進によるものである。

## 佐賀城址 (市營バス師範校角前下車)

舊佐賀藩鍋島三十五萬七千石代々の居城で元戦國時代に於ける九州の三豪と云はれた龍造寺の後をうけて、鍋島直茂その遺領を繼ぎ慶長十三年總普請を行ひ櫓櫓を築き城濠を圍らし同十四年に大体完成したが天守閣は十八年に完成した。城濠は成富兵庫守の設計になり平地の築城として代表的なもの



佐賀城の一部を遺して全部火災のため灰燼に歸し、今は僅かに牙城の一部、鯱の門に點々たる彈痕を遺し當時を偲ばせてゐる幕末の頃名君の聞え高かつた鍋島閑叟公の書院は赤松校

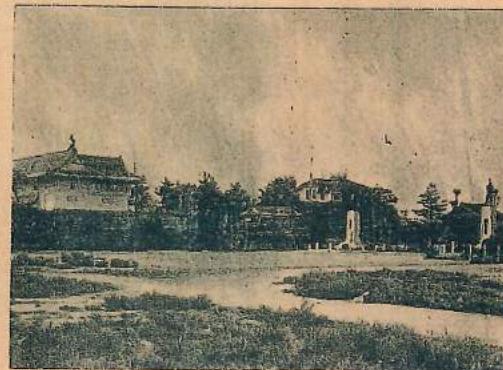
城址として使用され今尙保存されてゐる。

城總普請の時勝茂公は設計圖を前にして『腹切場所を忘れて居らぬか』と云つたと傳えられ、如何に築城に對して用意が周到であつたかをうかごう事が出来る。

### 本丸銅像園 (市督バス師範校角下車)

佐賀城前一帯の地を選んで、城門を取り入れ、測候所を移轉せしめて公園の計画があり、園内には日支事變の際満洲の野錦西城外の激戦に身を以つて聯隊旗を死守し降る雪を血に染め名譽の戦死を遂げた古賀傳太郎騎兵大佐の銅像及び江灣鎮の夕嵐と共に悲壯鬼神を泣かしめる最後を遂げた空閑昇歩兵少佐等典型的な英隱武士の銅像は幾千代迄も武勳を傳えて生けるが如き雄々しき姿を遺してゐる。同園内には郷土歴史館建設の計画があり古賀大佐、空閑少佐等二軍神の遺品を初め郷土歴史参考資料を收められる筈である

本丸銅像園



### 宗龍寺 (空閑少佐之墓)

鍋島藩祖直茂が天文十六年龍造寺隆信の菩提を弔つて佐嘉城の鬼門を選んで建立し城の守護とした

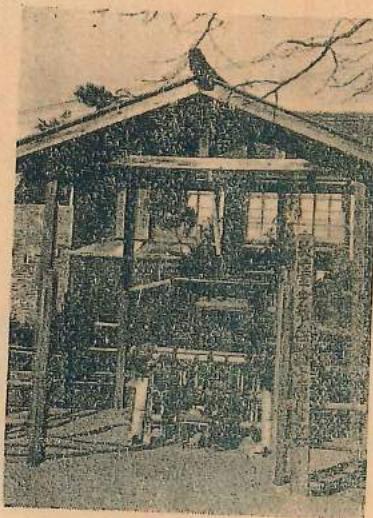
山緒深い憚宗曹洞宗の名刹である。

山門を入つて北側に日支事變の際江灣鎮の舊戰場で壯烈鬼神を泣かしめる最後を遂げ典型的な葉隱武士空閑昇少佐の墓がある。又裏の墓地には「佐賀の夜櫻」で有名な日本五騒動の一つ猫化騷動で怪猫を退治したと傳えられる忠臣小森千左衛門（講談では小森半左衛門となつてゐる）の墓がある。亦昔神埼郡三川村箱川を領してゐた佐々木四郎高綱が宇治川先陣に用ひた鞍を此の寺に納めたと傳えてゐる。

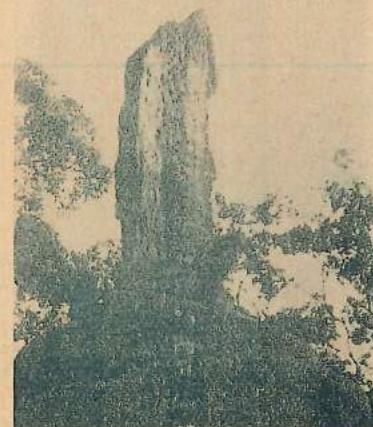
明治七年亂には中立黨であつた前山精一郎一派の集會所になつてゐた。

### 萬 部 島

幕 少 佐 開 空



... 22 ...



萬 部

水ヶ江町新道にある。明治七年の役（俗に謂ふ佐賀の亂）戦死者江藤新平、島義勇等征韓黨、憂國黨の志士等の招魂碑があり毎年四月拾參日招魂祭を行ふてゐる。もと征韓黨の記念碑は舊城の西門内、憂國黨は招魂社側にあつたが有志等相謀つて大正九年六月これを合併し此處に移したのである。

... 23 ...

頃から天文の頃、龍造寺家兼（剛忠）が國土安泰武運長久祈願のため法華經一萬部を讀誦し、その經卷を納めた所である。今尙その結願碑や鍋島勝茂以下歴代藩主の萬部の塔がある。境内樹木鬱蒼として茂り、岸を洗ふ小川の流に風情を添え春の櫻時人出が多いが、青葉若葉の頃迄こんもりとしたこの森の中にはうぐひすが啼てゐて、實に奥床しい風情である。

## 大隈公園

(市営バス舎所小路角下車)



大隈公園

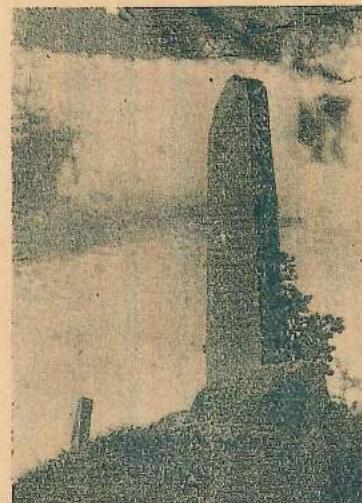
大隈重信侯誕生の邸宅が今になほ残つてゐて遺物書籍を青年子弟に自山に閲覧させてゐる。大正八年財團法人大隈重信侯誕生地記念會を組織し舊住宅境内に記念碑を建設した。記念碑は一丈二尺の自然石で題字は波多野敬直子爵の揮毫、裏面の碑文は文學博士久米邦武氏の撰である。大隈公は近代の世界的大政治家として内外に名聲を博した偉人で明治二十一年外務大臣として條約改正の難局に當り偶々兇徒の爲に爆弾を投げられ片足を失つたが意氣益々軒昂後に總理大臣になること二回に及んだ。早稲田大學も同窓が興したもので大正十一年一月十日逝

… 24 …

去の報傳はるや國を擧げて痛惜し前例のない國民葬を行ふた。

## 大木伯誕生地

(市営バス龍中前下車西南へ二丁)



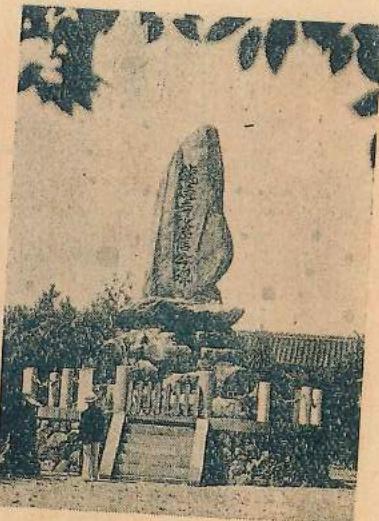
大木伯誕生地に大木喬任伯、大木遠吉氏父子の記念碑がある。喬任伯は維新の頃、江戸遷都を首唱した勤王の士で司法大臣、文部大臣に任せられ功績多く正二位に叙せられた伯の長男遠吉氏は豪放磊落、任侠に強く司法、鐵道大臣を歴任、よく父業を繼いだ人である。

## 隆信公記念碑

(中ノ館小路Ⅱ市営バス横小路下車)

戦國時代島津大友とともに九州の三豪と稱

… 25 …



隆信公記念碑

せられた。五國二島の太守龍造寺隆信の記念碑である。龍造寺隆信は幼時より武勇絶倫、恰も織田信長の如き風格を備へてゐたもので鍋島藩の藩祖直茂は彼と義兄弟であつた。並びなき武勇は遂に肥前、肥後、筑前、筑後、豊前、壹岐、対馬を征服して九州に霸を唱えたが、有爲轉變戦國時代の習とは云ひ不幸にも島津との一戦に脆くも敗れ島原に於て「紅鍋島直茂が徳川家康の寵を受け龍造寺家を實子勝茂に繼がしめたので、この兩家の此の暗鬭が講談化され世にも名高い佐賀猫化騒動である。

### 副島種臣伯屋敷址

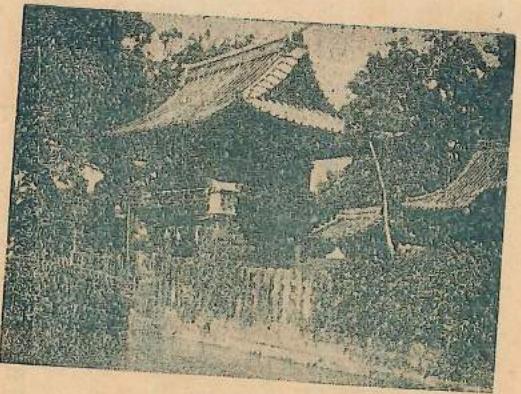
(市営バス城南橋下車)

副島蒼海の號を以て有名な人で維新の際王政復古の大業に翼賛し、大いに國事に勧め參議となり我が國の對清策に與つて功績が多かつた。副島伯は佐賀藩勤王家技吉神陽の二男として市外今津に生れ後副島家の養子となつた人で晩年権密院顧問官に任じ明治三十五年薨去、正二位に叙せられた。

### 縣社與賀神社

(市営バス與賀町下車)

祭神は豊玉姫命、彦火々出見命、瀛津島姫命、市杵島姫命、綿津見神、天兒屋根命、應神天皇、菅原道真を合祀してゐる。今を去る千三百七十二年前、欽明天皇二十六年、佐嘉郡小津西郷の塚原大明神(今の本庄神社)を遷して社殿を建設し芦原大明神と稱したのが此の社で朝廷から與止日女大明神の神號を賜ひ勅願所となつたと傳へられる。朝廷の御崇敬はもとより武家の信仰厚く須徳天皇御宇建暦二年北條義時自ら奉行となつて社殿の造營を行ひ、後嵯峨天皇御宇寛元三年、執權北條経時、勅を奉じて祭祀の禮式を定め、後柏原天皇御宇永正十年八月十二日神階正一位に叙せられた。爾來、少貳龍造寺鍋島の崇敬厚く現在の神殿、拜殿及び門前の石橋、石鳥居や神輿二基は鍋島直茂夫妻の寄進で



佐賀城の鎮守として歴代藩主の尊信が厚かつた。例祭は十月二十九日で神輿渡御の儀がある。なほ同社朱塗の樓門は大正二年四月十四日特別保護建造物に指定された。鎌倉時代の建造らしく建暦二年北條義時、社殿造営の時の建造であらうと云はれてゐる。又、寶刀の太刀（康光と傳ふ）一振は大正八年四月十二日國寶に指定された。

### 本行寺

（市營バス南正丹小路下車）

江藤新平、成富兵庫守茂安の墓がある。江藤新平は、佐賀三平の一人で「南白」と號し維新後、文部大輔、司法卿に歴任し我國における司法事務を統一し司法権の獨立を圖つた功勞者である。明治七年征韓の議容れられず、歸國し西郷南州の舉兵に先き立ちて佐賀の亂を起し

同四年十三日四十歳を以て悲壯な最後を遂げた。成富兵庫守茂安は水利土木の名人で築城には殊に秀で佐賀城は固より尾張名古屋城、大阪城、江戸城、熊本城、の普請修築にも關係したといふ。筑後川の築堤も彼の手にかかるものである。他方彼は武人としても有名で豊太閤の征韓の役には直茂公の先陣を承はつて功あり加藤清正に認められ一萬石で迎へたいと申入れられたが「たとへ肥後一國を賜はるとも主君を見捨て難い」と答へ清正をしていよいよ感嘆させたといふ話がある。

### 招魂社

（市營バス川原小路下車）

明治二年舊藩主鍋島閑叟公が戊辰、己巳の役に斃れた佐賀藩士のために招魂社を建設し懇ろに尊祭を修むべしとの旨があり翌三年藩知事直大侯によつて建設されたものである。明治七年三月十七日内務省より官祭の示達があつた。東京、京都、秋田の諸社とともに全國に先んじて官祭となつた招魂社の一つである四月三十日の例祭、十月二十三日の秋祭には縣知事が祭主となつて、祭典を執行する。現在の祭祀者は官祭（國）八十六柱、私祭（縣）一千七百五柱、合計一千七百九十一柱で日支事變の

古賀聯隊長、空閑少佐、爆彈三勇士の一人江下伍長をはじめ有名な勇敢なる水兵三浦虎次郎氏などの英靈も合祀されてゐる。

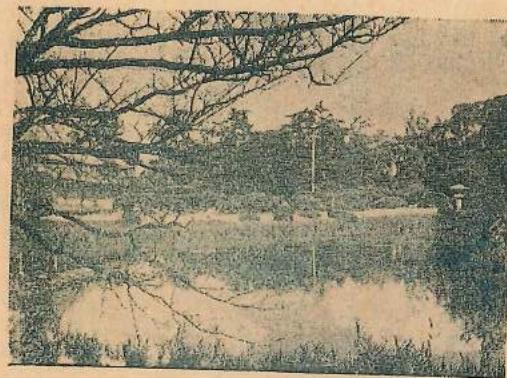
### 多布施反射爐址（多布施町十間堀）

嘉永六年八月十五日、幕府から品川砲臺に新設する鐵製三十六ボンドカノン二十五挺、同二十四ボンドカノン二十五挺、計五十挺車神臺其鑄造方を佐賀藩に嘱託しるので築地反射爐の外に（岸川町北裏、野新大反射爐を架造し「公儀御用石火矢鑄立方」の標札を掲げて早速鑄造に着手翌安政元年納附した。

### 神野公園（市営バスの便あり）

西神野多布施川の清流に添ふた所にある。舊佐賀藩主鍋島

神野公園



… 30 …

閑叟公の別荘として弘化三年二月起工同十月竣工したもので正門内の屋舎は當時の別邸で此の庭苑を見て閑叟公の質素さが窺れる閑叟公は政務の餘暇にしばく此の地に優遊した。普通に「神野の御茶屋」と稱してゐるが鍋島直大侯が襲爵披露のため歸國の際佐賀市に寄附したが、園内には多布施川の清流を引いて池水を湛え水清く砂白く小高い丘の古松、古梅は雅致を添え、櫻あり、藤あり、菖蒲あり、月に雪に花に四季をりくの情趣を集めてゐる。殊に近來櫻の名所として知られ池畔吉野櫻が花の隧道を形造る風情は、えも言はれない。近年市では神野茶屋近く迄の多布施堤の美化、神野公園前の土地を買収して公園擴張の計劃が樹立されてゐる。

### 市内觀光コース

一時間のコース（佐賀驛起点）

楠公神社——佐嘉神社——大隈公園——佐賀城址——本丸銅像園——萬部島——空閑少佐之墓——商

店街を経て佐賀驛

… 31 …

## 二時間のコース

(佐賀驛起點)

- ◆ 楠公神社 — 佐嘉神社 — 松原神社 — 空閑少佐の墓 — 萬部鳥 — 大隈公園 — 大木伯誕生地 —  
佐賀城址 — 本丸銅像園 — 城内水源地 — 與賀神社 — 招魂社 — 神野公園
- 三時間のコース  
(佐賀驛起點)

- ◆ 楠公神社 — 微古館(入场料金五錢) — 銅像園 — 佐嘉神社 — 松原神社 — 空閑少佐之墓 — 萬部  
鳥 — 大隈公園 — 龍造寺隆信碑 — 大木伯父子誕生地 — 佐賀城址 — 本丸銅像園 — 城内水源地 —  
與賀神社 — 本行寺 — 八戸地藏菩薩 — 神野公園 — 佐賀驛

## 効外への観光コース

### 半日のコース

- ◆ 第一コース — 佐賀驛 — 神野公園 — 春日之御墓所 — 川上峠
- ◆ 第二コース — 市内観光コースの内何れかを選び諸富リフト式鐵橋

### 一日のコース

- ◆ 第一コース — 佐賀驛 — 神野公園 — 春日之御墓所 — 川上峠 — 石神群
- ◆ 第二コース — 第一コースの川上峠より湯ノ原古湯温泉へ延長
- ◆ 第三コース — 第一コースの川上峠より北山正現獄へ
- ◆ 第四コース — 『多久聖廟』『唐津』『祐徳稻荷神社』『武雄温泉』『黒髪山』等何れを選んでも興味深いコースである。

## 県下の名勝地

### 石 標 (貸切自動車で二十分)

佐賀郡春日村大字尼寺字北村にある。三百年の昔土木治水工事の先驅者として東に河村瑞軒、西に成富兵庫守と並び稱せられ人で舊佐賀藩の初期時代の武將であり、又治水家であつた成富兵庫守茂安が元和元年間に築造したもので川上川の支流、多布施川を改修し巨大な石閘を設け、佐賀城軍署上の

防備と佐賀平野の灌漑に百年の計を樹立して今日迄多大の恩恵を下流農村は蒙つてゐる。象の鼻、天狗の鼻の偉觀は今尙水勢調節の妙用を現はし水利施工上一大施設として驚異に値する。兵庫守の治工事は此の外縣下に數ヶ所に及ぶが何れも今尙農村治水上に非常な恩恵を與えてゐる。晚春から中秋の頃にかけ輕舟を浮べて川上より石樋を経て多布施川下りの客が多い。

### 水郷川上峠

(佐賀市神野より電車、佐賀驛より乗合自動車の便あり)

佐賀市から西北へ二里、山紫に水清き景勝の美を有する幽仙峠川上は日本百景の一つで九州嵐峠の稱がある。水清き川上川に架した丹塗欄干の川上橋を中心に展開する山紫水明の景趣——岩を嗜み岸に逆つた激流も此の地に入つてゆるやかな淀みを作つてゐる。その風光四季を通じて可ならざるはなし。殊に春の頃柳櫻をこきませて錦織なす頃の野趣、豊かな景色、青葉若葉が日に沁みる様初夏の頃綠の蕉を清流にひたす明眉な風光、秋兩岸紅葉せる山容の美、雪のあした見渡す限り眞白な雪に埋めた豪莊な雪景色等それは大自然が描ける一幅の豪華な繪巻物で名工の筆の及ぶべくもない。中秋爽や

かな頃名物の鮎築に落ちる香魚の數も多く古から鮎の名所として知られてゐる。目下佐賀縣では川上の西にある秀峰天山より川上、熊の川、古湯の一滯大自然の山の美に渓谷妙をつくした此の地一帯を取り入れて縣立公園を設立すべく内定し調査が進められてゐる。

### 春日御墓所

(川上行き電車終)

上 峠 川



...35...

御墓所の境内四圍青松に囲まれ御手水に注ぐ覧の水の音は樹々に囁する小鳥の聲に和し幽遠を極め一脉聖淨の氣自ら身に迫るを覺える。聖地に舊佐賀藩主鍋島直正(閑叟公)侯の遺髪を葬り又鍋島直大侯の遺髪をも此地に葬つてゐる。墓前には明治四年島雲隊が獻上した石籠燈、大正十年舊藩士が直大侯のため獻納した石燈籠に

...34...

は苔蒸して雅致を添えてゐる。背後には閑叟公に殉死した古川松根翁の墓がある。

御手洗の瀧 春日御墓所から北方へ六町餘の渓谷の中にある。その昔秦の徐福が不老不死の薬を求めて金立山に登る道すがら此の山中に來たが、時恰も真夏の頃であつたので、渓谷に瀑布があつたので暫く憩ひ涼を入れ、清い冷水に汗を流したと云ふ傳説の地で後の人はこれを『御手洗の瀧』と呼び觀世音菩薩を祀つて御手洗觀世音と稱したと傳ひてゐる。瀧の高さ十二尺餘、春から秋へかけて佐賀市から絶好のハイキングコースで、三月から五月末迄うぐひすの聲ぶるが如く、初夏青葉若菜の頃には御墓所からこの幽谷の地一帶ほんどき杜鳥啼く聲も一段の趣を添へてゐる。

### 縣社川上神社

川上川に架せられ丹塗の橋を渡つた所にある。一名淀姫神社と稱し俗に「淀姫さん」と呼んでゐる。千三百七十餘年前欽明天皇二十五年十一月朔日の創立で往昔「肥前國」の宮として朝廷の尊崇厚く、御陽成天皇は「大日本國鎮西肥前州第一之鎮守宗廟河上正一位淀姫大明神一宮」と云ふ宸筆の勅額を

下し賜ふた程由緒ある神社で往古本殿の造営及び祭祀の費用は全部正税を用ひ、室町時代迄は肥前國中に課役されてゐた。社殿宏莊、祭祀莊嚴を極め、白河帝の御代から流鏑馬、田樂等が行はれてゐたが天文、永祿の頃兵火に罹り社領は武家に押收されて漸次衰頹に陥つた。其後龍造寺、鍋島家の信仰は非常に篤かつた。現今の社殿は文化十三年の火災後舊藩主鍋島家の再建に依るもので往時の宏莊は偲ふ由もないが靈域は川上川の西岸に位して、境内には老杉、古樟鬱蒼として社頭を覆ひ壯嚴さ自ら襟を正さしめる。川上の二帶風光絶佳の地に閑雅清淨の趣を添えてゐる。例祭は春の花咲く四月十日に行れる。

境内に焼楠一本があるこの焼楠は文化十三年の大火に焼けたが、廻り六丈、高さ三丈六尺當時靈木の大老楠として知られ現在迄その姿を遺してゐる。

### 實相院

河上神社の西側道を隔てた所にある。眞言宗の巨刹で一千二百二十餘年前、僧行基の建立と傳えられ

堀河天皇寛治元年僧圓尊座主となつて眞言宗に屬し「河上山神通密寺」の頼額を賜はり古來日本七  
座の一つで國內の巨刹として遠近の歸依が深かつた。往時は堂塔伽藍宏莊を極め四十坊をなしてゐた  
が、しばく兵火に罹り、後鍋島舊主の崇敬厚く漸次舊觀に復したが嘉永七年の火災に堂塔殆んど烏有  
に歸した。現在の堂宇は其後の建築で僅かに客殿、方丈、土藏を存するのみである。境内の土地高燥  
その規模宏大でそぞろに往時が偲ばれる、背後の丘からは佐野の大平野を一眸の裡に收め有明の海を  
隔てゝ遠く雲仙の山々を眺め、南畫を見る様な風光はえも云はれぬ風情である。毎年四月十日から二  
十日迄一日間春の花時盛大な如法經會が營まれ參詣者は縣下一圓筑前、筑後に及んでゐる。

### 石 神 群 (川上電車終点から一里)

佐賀縣下に於ける最も異色ある觀光地として最近世に出た佐賀郡松梅村下田山の石神群は、全國に  
も稀らしい古代文化の大遺蹟として考古學上は勿論、その雄大なる石神の散在するところ、まさに天下  
の偉觀として推稱されてゐる、下田山石神群の事蹟は今を去る千二百餘年前、日本最古の肥前風土記



石 神 群  
その王座をなす造化石を初め兜石、船石、鳥帽  
子石、蛙石、天の岩戸、御座石、神籠石、雄神石、  
崎石等その數十三基

宛ら全山石神に埋もる壯觀を呈してゐる古

内務省へ史蹟調査委員の派遣方を要請してゐる、なほ山麓には九州嵐峠の稱ある日本百景の清流川上  
川があり、近くに仙峽古湯、湯の原兩温泉を控へて四季浴客の絶え間がなく、また下田山頂からは坦  
々たる築紫平野の果に千古の謎を秘める不知火の有明海を一望に收め得るところ將に海上自然の神秘  
と山上人の文化の神秘とが暗黙の裡に握手するかの感があり、そぞろ天地の悠久さには自ら頭が

下る。

趣味と觀光の兩方面から最も珍重されてゐる——佐賀市から電車、自動車の便があり北方約三里の地点にある。

### 玉 林 寺

佐賀郡春日村大字久池井字出羽（川上行電車惣座停留所下車東へ四丁）

後龜山天皇御宇元中元年の建立で開山は無着和尚、曹洞宗の巨刹である。後小松天皇の諭旨並びに『玉林寺』の勅額を賜ひ、後奈良天皇重ねて綸旨と『玉林寺』『祈禱』の勅額を賜つた。舊藩主鍋島家の崇敬亦非常に厚く鍋島家の祈禱所であった。同寺に安置する本尊薬師如來は新義眞言宗の開祖興教大師の作と傳はれ多くの古文書を存じてゐる。玉林寺境内の小高き山の一部を開拓して梅林の計劃が樹てられ蒼々として工事は進められてゐる。

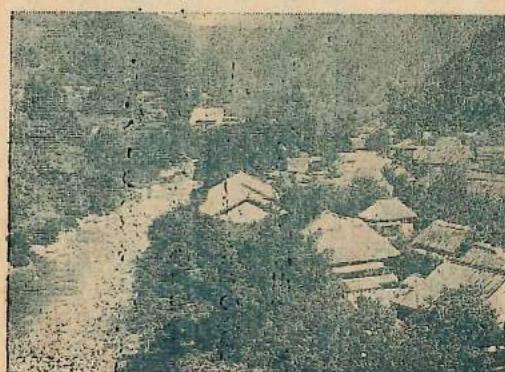
### 寶 塔 山

（川上電車終点より川上川東岸北へ五丁）

稱光天皇の御宇應永三十二年（五百餘年前）日蓮宗の傑僧日親上人大法宣布の道すがら山水秀幽の城渡城に來り

末世に残す大寶塔を印せんと自ら鑿を振ひ勇猛精進し「南無妙法蓮」の五字を刻んだ時、賊徒に災ひされて紅血岩上にほとばしり「蓮」の字劃も「え」を残して鑿音は止んだが百五十餘年の後文祿元年九月豊太閤征韓の軍を起すや肥後國を領してゐた加藤清正、駒を進めて名護屋の本陣に向ふ道すがら、この都渡城の地に入つて清正の馬膝を折つて進まなかつたので手兵を命じて杜を探らしめ寶塔を發見したので清正是これ信仰の妙果なりと戰勝を祈つて日親上人の後をうけて「え華經」を補つて名護屋の本陣に向つた。後人この地を膝折坂と稱してゐる。靈場の大寶塔は日親上人と加藤清正の合作に全きを得今日に至る迄九州各地からの參詣者ひきもきらない。

熊の川温泉（佐賀驛より乗合自動車の便あり）小城郡南山村大字熊の川にある。仙峠川上より西北に一里古湯に向



ふ道すがら溪谷美豊かな川上川に添ふて登ると熊の川温泉に達する。五十戸餘りの小部落で浴場は川上川の清流に添ふた岸邊にあり「湯の原温泉」と稱し野外に砂湯の設備もあり。山越豊かな山の懷に抱かれた温泉郷で、延寶年間に發見されたものと傳えられ九大醫學部附屬醫院藥局研究室での分析の結果によるとラジウムエマナチオン含有量の多い事は全國有數のもので、九州地方では冷溫兩種の鑄泉を通してこの温泉に匹敵するものはないと折紙をつけてゐる。

古湯温泉（佐賀驛より乗合自動車の便あり）小城郡南山村大字古湯にある熊の川から西北へ一里、熊の川を過ぎる頃からは川上川の溪流は愈々自然の美を増し羊腸にも似た小徑は樹木に掩はれ春淺い頃から初夏の頃迄沿道の森の中から、うぐひすの聲はせゝらぎの音を透して降るが如く聞えてゐる。こうした神秘境に古湯温泉はある。全く清淨粗野な山の湯で最初の發見は孝靈天皇七十二年北山に住む一人の翁が靈夢によつて發見したが寛政二年に稻口三右衛門と云ふ人が水道に鶴が遊んでゐるのを見て堀り當てたのが今の古湯温泉でこれを「鶴靈泉」と呼んでゐる。こうした神秘な物語りふさわしい清淨粗野、野趣満々たる山の温泉場で脂粉の香漂ふ俗惡さ等全くなくこんもりと茂つた木山や。幾

條となく軟かな襞の流れた草山の中に圍まれた神仙境の一帯は「木曾の御嶽夏でも寒い……」の唄そ

のまゝ盛夏の頃も九十度を越えず、嚴冬四十度を下らぬと云ふ。熊の川から古湯一帯の川鹿は美音なので有名で谷川のせゝらきを透して聞ゆる妙なる聲は山の懐の湯の街にふさわしいものである。

基  
肄  
城  
址  
基  
肄  
城  
址

（鹿兒島本線基山驛下車西方約一里）佐賀、  
福岡縣に跨る基山の頂きにある。今を去る千二百六十餘年前天智天皇四年九州筑前大宰府を中心ニ水城、基肄、大野、鞠智等と共に朝鮮式土城を築造して國防を嚴にし給ふ遺蹟で就中基肄城は百濟よりの歸化人をして築造せしめ給ふたもので今尚周圍の地形を巧みに利用した延々四十五町に亘る土壘の地を完全に遺し當時の規模が如何に雄大であつた

かを察知せられ貴重な國家的遺蹟である。山頂には肥前史談會が昭和八年六月十日に建設した天智天皇欽仰碑がある。

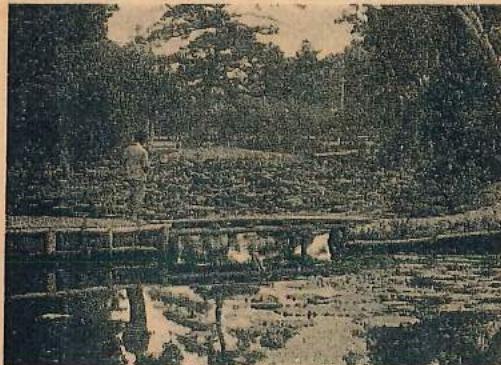
縣社仁比山神社（長崎線神崎驛下車驛北方へ約一里神崎から乗合自動車の便あり） 神崎郡仁比山村山王嶽の南麓にあり祭神大山昨尊。聖武天皇、天平元年勅願に依り松尾明神を勧請し給ひ後仁明天皇の御宇に勅令によつて叡山、山王宮の分靈を合祀したと傳えられ、仁比山の名は仁明天皇の勅號であると傳えられ俗に「山王さん」と呼ばれ古來農事の神として肥前、筑前、筑後等の農事關係者の間に尊崇されまた歴代の藩主の崇敬も厚く、毎年四月最初の中の日に御田祭が行はれ十三年に一度中の年には大御田祭と云つて古典的な雅趣に富む田植舞が行はれる。

蓮池公園（佐賀駅より乗合自動車の便あり） 佐賀市の東一里余の所にあり。寛永十六年佐賀藩の支藩として鍋島直澄此の地に封ぜられてから明治維新迄藩主の居城であつた。明治十年舊館は火災のため焼失したので村民がその址に山を築き池を堀つて公園を設けた園内には桜の老樹が多い花時は神野公園と共に櫻の名所として有名である。池畔には鬱蒼たる杉林があり、松・梅・藤・芙蓉・海棠を

配して四季とりくの趣きがある。上海事變の際廟行鎮の戦ひに肉彈を以つて皇軍の進路を拓いた、肉彈三勇士の一人江下武二伍長はこの地に生れたので、江下伍長の武勳を永久にたゞえて公園内の蓮池神社頭に銅像が建てられてゐる。

金立山（佐賀市から約三里タクシーの便あり） 佐賀市外金立村内にある。山頂に金立神社があり祭神は保食神。

岡象女命・相殿秦徐福で創立の年月は詳でないが孝靈天皇の七十二年秦の徐福が不老不死の靈藥を求めて來朝し此山に登つて三社權現と現はれ、後社殿を築造したと傳へられてゐる。古來肥前國の古社として知られ延喜年間醍醐天皇の勅願所として御再興あり、降つて舊藩主鍋島直茂も社殿を造營した。又徐福が浮盃津に上陸したと云ふ傳説に因ん



蓮池公園

で昔から早魃の時には雨請が行はれてゐる。

△ 北山正現嶽 || 金立山の麓にあり稻荷大明神を祀つてゐる。開山は約五十年前であるがこの地一帯佐賀市を一望の裡に收め眺望展けて自然の風光に富んでゐる。稻荷大明神を俗に「北山正現さん」と呼び靈験あらたかで佐賀市附近一帯の近頃から參詣者が多い。

△ 山本常朝先生垂訓碑 || 正現嶽の麓にある。「葉隱三哲」の一人山本常朝先生が草庵の址に山本常朝先生の徳を偲んで垂訓の碑が建てられてゐる。

此の地一帯佐賀市からのハイキングコースとして好適で四時遊覧客の絶間がない。

諸富リフト式鐵橋 || (佐賀市より一里余佐賀驛より乗合自動車の便あり) 福岡縣と佐賀縣境を流れる筑後川の下流諸富と若津を繋ぎ南筑と肥前の交通を便ならしめ筑紫平野の産業開發に一期劃をなした國鐵佐賀線の工事として特筆すべきもので、川幅四丁四十間の間に架した可動式鐵橋はその裝置に於いて鐵道省が東洋一を誇つてゐる。筑後川下流鐵橋の附近は三百噸から五百噸位の船舶が出入りしてゐるので。船舶の交通を便ならしめるため鐵橋の中央約三十間の間を上下に動く様に仕掛けて船舶の航行

を自由ならしめてゐる。鴨綠江に架した東洋一を誇つた十字に開く鐵橋の開閉を中止した今日、筑後若津、肥前諸富間に架したリフト式可動の鐵橋はその裝置に於いて規模の大なる點に於いて名實共に東洋一の大鐵橋で、満三年の日子を費し五百五十餘萬圓の巨費を投じて昭和十年一月竣工した。日本三急流の一つ筑紫二郎の流れも漸くゆるやかになつた所に可動裝置の鐵塔が天に摩してゐる偉觀は佐賀の新名所として新らしくデビューし、佐賀線を利用して見物の客ひきもきらない。

俊寛僧都の遺蹟 || (佐賀郡嘉瀬村大字荻野字嘉瀬津法勝寺にある佐賀市より約一里余乗合自動車の便がある)

俊寛僧都、成經、康頼等が京都猪ヶ谷の山莊に平家倒壊の陰謀を企てたが、その企て半にして破れ清盛のため治承元年鬼界ヶ島に流された事は歴史を繙ぐ人々にはあまりにも語り盡された物語であるが鬼界ヶ島とは鹿兒島縣大島十島の中の硫黃島であると淨瑠璃や謡曲等にも傳えられてゐるが一説には、鬼界ヶ島とは長崎市の長崎港外伊王島が僧都俊寛等流謫の地で、七百年前この伊王島附近を中心として南を薩摩潟、北を松浦潟と稱してゐた事から薩摩沖の硫黃島と誤り傳へられたのではないかと見られ、長崎港外伊王島には俊寛・成經・頼康等流謫の地である事を立證する幾多の遺蹟があり。又嘉

瀬の庄（現在の佐賀郡嘉瀬村一帯）は平教盛の領地で教盛は成經の舅に當り、この地から荒木乘觀と云ふ人が伊王島に食料を運んでゐた事が明であり、成經、頼康等が赦されて都へ歸る時ひそかに嘉瀬庄迄連れ來り嘉瀬庄で逝いたと傳えられ法勝寺に俊寛の墓がある。法勝寺は京都で俊寛が住んだ寺を頼朝が俊寛の冥福を祈り此の地に移したと同寺に文献に記されて居る。

### 櫻岡公園

（小城郡小城町に有唐津線小城驛下車・小城驛より三丁佐賀市より乗合自動車の便あり）

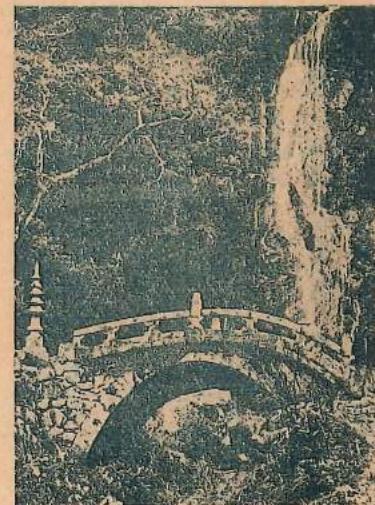
小城町の西南部にある。もと鯖岡と云つた一小丘で元和の頃舊藩主鍋島元茂がこの地に櫻樹を植え、その子直能明暦二年に領地に入り櫻岡と改め、更に多く櫻樹を移植したので花の名所櫻岡として古くから有名で靈元天皇御宇延寶年中に叡間に達し、新院後西天皇は親しく御製を賜はれた。明治八年土民、官に請ふて公園とし規模を擴張して景趣を添えた。もの錆びた園内の風致は縣下で最も古い公園としての貢錄を示してゐる。丘の頂上は眺望も亦非常に絶佳で自然の美と人工妙、典雅のなによく合致してゐる。

縣社須賀神社（唐津線小城驛から北へ十六丁余）小城の地方では俗に「祇園さん」とも稱してゐる。六百余年前北條高時の時代小城の地頭千葉胤貞が京都から木像の御神体を移し來つて此社を安置し當時肥前國第一の祇園社として崇敬が厚く、「祇園社」と稱したが明治維新の頃「須賀神社」と改稱した。同社の祭禮は「花柴祇園」「山引祇園」「柿祇園」等である。

清水觀世音と清水の瀧（唐津線小城驛から北へ約一里小城より乗合自動車の便がある）小城町字清水の清水山見龍寺にある天臺宗で延暦二十二年今より千百二十余年前桓武天皇の勅命を奉じて聖命聖人が開基したと傳えられ本尊に千手觀音像を安置し當時堂宇三百坊を成し九州隨一大伽藍であつたが元龜、天正の頃兵火に罹り悉く焼失

櫻岡公園





したのを寛永四年鍋島勝茂が再興した。銅瓦葺の大悲閣の建物は豪莊を極めその前に銅葺門、仁王門、石門等があつて往時豪華さをそぞろに偲ばせてゐる。大悲閣の側にある瀧を「清水の瀧」又は「珠簾の瀧」とも稱し直下三十五丈、漂ひ瀧の近くは夏尙寒く、四季を通じて遠近からの参詣者絶ゆる間なく殊に盛夏土用の丑の日には灌請の参詣者は筑前筑後より殺倒してゐる。佐賀市からのハイキングに好適で春から秋の頃は殊に登山者が多い。

牛尾の梅林（唐津線小城驛から西南へ約三十五丁タクシーの便がある）牛尾山は小城町大字池の上にあり縣下に於ける第一の梅の名所として名高く周囲の風致雅味豊かな点、梅樹古木の多い点に至つては九州の梅の名所と

して名高い二日市大宰府の梅園を凌いでゐる。春淺い頃滿山の梅花開く頃は清香馥郁として全山に漂ひ野趣豊かな梅の名所として近來遊覧者が漸次増加してゐる。小高い山の頂きからは筑紫平野を一望の裡に收め自からの風致を形ち作つてゐる。

天山 天山は小城驛の西方約一里半、佐賀縣の中央に位し海拔千四十六米、山容秀麗頂上からの眺望甚だよく一名肥前アルプスの稱がある。山頂から西北を望めば重疊たる山脈を隔てゝ松浦潟の景勝を賞すべく南方は肥筑の大平野、有明海、多良、雲仙の秀峯を一望の内に收め遠く肥後の靈峯阿蘇の噴煙を眺めその眺望は雄大なるものがある。山頂には天山神社の上宮、石祠及び阿蘇塔がある。阿蘇塔は南朝の忠臣、阿蘇大宮司惟直卿の墓で延元々年惟直卿は父惟時、菊地武敏等と共に足利勢を筑前多々良の濱に迎えて戦つたが利非ず遂に敗れて肥前に退き、矢折れ刃つきて天山の麓で自刃したので遺る家臣は卿の遺言により天山の頂きに塔を建てたと傳えられ、年遷り星變り幾百年不過の忠臣惟直卿の墓には苦むしてゐる。

多久聖廟（唐津線多久驛下車南へ一里乗合自動車の便あり）小城郡多久村椎原山西麓にある。舊多



多 久 聖 廟  
聖廟は支那風で孔子聖像他、顏子・曾子・子思子・孟子四哲の像を聖廟に安置してゐる。毎年今尙唐制に倣うて莊嚴な釋祭を執行してゐる。大正十年三月内務省から史蹟に指定された。四圍多久の連山に圍まれ其間を流るゝ多久川は多久平野の中をゆるやかに流れ山河秀麗靜かな神仙郷である。此の地一帯、梨、ブドウ、枇杷等の産出多く

...52...

美味な点に於いて九州各都市の市場で非常な好評を博してめる。

### 唐津市

(唐津線終点。佐賀より川上、古湯を經て行く乗合自動車と久保田、小城を經て唐津へ至る乗合自動車の便がある)

唐津市はその名の示す様に古來博多の津と共に玄海に面して對支通商の唯一な門戸として知られ、小笠原氏六萬石の舊城下で人口三萬五千を超え國際觀光都市として自覺しい發展の途上にあり年々拾五萬餘の觀光客を迎えてゐる。又產業上にも佐賀縣北部の中心をなし昭和七年より着手した唐津港の修築も年々完成の域にあり、完成の暁は満鮮貿易の要港として期待されてゐるが輸出の主なるものは石炭、雜貨の類で貿易總額は年額六百萬圓を超えてゐる。唐津……古からそうしたエギソチックな語り草と傳説に富む唐津の持つ風光の中で異彩を放つものは玄海の荒海に面した唐津市を中心として東西十里に亘る松浦瀉の史蹟と傳説を秘める島と浦と山を抱擁する風光の男性的な豪壯味と女性的な纖細美を兼備する大自然が描き出す景觀と其中に點綴する佐用姫の悲戀、岸丘落城に絡む哀史、キリシタン宗徒の忍苦等々洗練され切つた豊かな傳説が濃麗な情緒をそゝり、天與の展望所が大自然の懷を開

いて行人を招いてゐる。

### 虹の松原（東唐津、唐津驛から乗合自動車の便あり）

玄海の荒浪打ち寄せる白砂の上、延々二里に亘る弓状の大松林、千古の翠を連ねる老松樹幾百本、この鮮かに描き出せる大自然の風致こそ觀光都市唐津が世界に誇り得る最上のものである。林中に「大閣睨みの松」「清正槍掛の松」「松原おこし」等朝鮮征伐にゆかりの史蹟が多く、今日では林中に外人向きのホテル數軒があり殊に異彩を放つてゐるのは市営の觀光ホテルで林中に日本趣味と洋風の融合したホテルが建てられてゐる。松浦川をへだて、西の濱、東の濱には海水浴場がある。

虹の松原



... 54 ...

### 舞鶴公園（唐津驛、東唐津驛よりバスの便あり）松浦川の流れ緩かに松浦灣頭に面した所に唐津

城址がある。城は慶長年間に築城したもので寺澤、大久保、松平、土井、水野、小笠原諸侯の居城であつた。今日では巨大な石垣を繞ぐらされたお濠に昔の名残をとどめてゐる。舞鶴公園は一つの舊城址の本丸でその展望は東に鏡山、虹の松原を、北に豪莊な玄海の島々を、西に長汀の濱を、南に全市街を望み登園の人々が秀麗と雄大な構圖に思はず讃嘆の言葉を漏らすであらう。園内には櫻が多いまた九州一の稱ある藤がある、松原の翠綠、濤の白砂玄海の碧波の三重奏は全く「不滅の虹」である。

鏡山（北鐵虹の松原驛下車山頂迄自動車の通じるモダンなドライブ道路がある）淨瑞翁「朝顔日記」にある「盲目のこの身はいかなる惡業ぞや、夫の後を戀ひ慕ひ石になりたる松浦潟、ひれふる山の悲しみも……」の「ひれふる山」で佐用姫の悲戀物語りの傳説は淨瑞翁に小唄に謳はれて餘りにも有名である。山腹に櫻樹多く頂上にはゴルフリングがある。

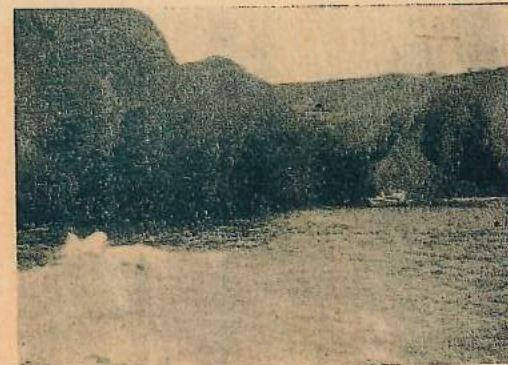
七ツ釜（唐津から西北へ二里半、自動車又は遊覽船の便がある）玄界に向つて立つ七ツの洞門で内務省指定の天然記念物である全部玄武岩の六角柱から成り疊々相倚り、累々相迫つて壯觀云ふばかりなく釜を並べた様に列つてゐる。これ七ツ釜のある所で中央の洞窟か一番多く浪靜かな日は船を

乗り入れれば神鑿鬼刻極りなき造化の神の妙技に眼をみはるであらう。七ツ釜の上部は廣い草原で、往古神功皇后御征韓の御歸途此地に凱旋の宴を張り給ひ諸將に御酒を賜りそれに用いられた土器を埋め給ふた傳説があり地名を「土器崎」と稱せられてゐる。

名護屋城址（唐津から北西に五里乗合自動車の便がある）

釜

文祿年間、一世の英傑豊太閤が征韓の役に本陣を置いた所で往年の金城鐵壁——東亞の天地を震憾せしめて茲に星霜三百餘年今は僅かに二の丸、三の丸址に石壁、礎石の名残りを留めてゐるが、本城を圍んで二、三里の間には徳川、前田、上杉、小西、加藤等全國百五十餘の大小名が、旗鼓堂々と構えたる幕營の跡を俯覗すれば草木尙兵を



…56…

擬するの感が深い。頂上から北西を眺むれば玄海の荒波を越えて壹岐、對馬を望もむ事が出来る。

呼

子（唐津から四里乗合自動車の便あり）水郷情緒

豊かな漁村で遊女が自から櫓を操つて遊士を送迎すると云ふ情緒こまやかな溫柔鄉で全國でも珍らしい町營料亭がある

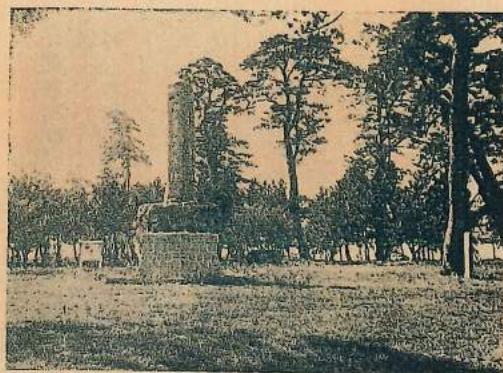
田島神社（呼子町の海上加部島の東北端にある）國幣中

社で今を去る千二百余年前、聖武天皇の天平三年の建立に係ると傳はられ、境内の末社佐用姫神社には佐用姫の望夫石がある。冬の頃は捕鯨船の根據地である。

武雄温泉（長崎線武雄驛下車佐賀より）

…57…

その名も古典的な床かしい蓬萊山下に滾々として湧き出る千古の靈泉……その昔日毎に汀に降り立





武雄溫泉

つ白鶴を追ふて川を遡つた一人の翁が發見したと傳えられ、古來「柄崎溫泉」と稱へまた「蓬萊泉」とも稱してゐる。神功皇后が御大刀の柄で岩を衝かれた時忽ち湯氣を吹いて温泉が湧き出たと云ふ神秘的な口碑が残つてゐる。佐賀縣下に於ける温泉として全國的に知られてゐるものに武雄、嬉野の温泉がある。

湯の町として設備も完備し温泉の前には天平

の昔もかくやと思はせる丹塗の大樓門があり、その門を中心にして繪畫の様な自然の景勝に包まれた一帯の雰圍氣は、湯の町武雄の情緒を織り出し俗化しきらない中に軟かな温泉情緒を點綴してゐる。年々浴客の數も増加してゐるが春秋の頃四圍の風光にも亦捨て難い趣がある。旅館の主なるものは、東洋館、春慶屋、東京屋、武雄ホテル等がある。

**桜山公園** || 武雄温泉の背後。蓬萊山を中心とした高地一帯で桜山公園と稱してゐる。蓬萊山は又一つに「白龍ヶ峯」の稱があり天然の奇岩、奇勝を取り入れて巧みに人工の妙を施して風情を添え、その半腹には桜、桃、躑躅、楓等を植えて四季折々の景趣を添えてゐる。

**御船山** || 武雄驛から南十五丁の所にあり巣々たる奇岩怪石から成つてゐて烏帽子の形をし、蓬萊山と對峙して劍を磨いた様にすつと天に冲してゐる。その昔神功皇后御征韓の際御船を此處に繋がれたので「御船山」と呼んだと傳わられ「唐船山」又は「城山」とも呼んでゐる。全山火山で孤峰相擁し奇巖互ひに迫り、その間に松や杉がこんもりと茂つてゐる様はさながら一幅の南畫を思せる。附近一帯名勝史蹟に富んでゐるので浴客の登山者も多い。

**萩の葉屋** || 御船山の西南麓武雄町武雄にあり武雄驛から西南約二十町乗合自動車の便がある。舊武雄邑主鍋島男爵家の別荘で、仰げば御船の奇峰。千丈の斷崖を削つて眼前にそびえ、座して池畔の小亭に憩ふと布置結構の妙を盡した園内の雅致に自から座の外の客たるを思はしめる。梅、櫻が園内に多く、殊に此處の櫻は名高い。

**黒髮山** (長崎線三間坂、有田驛下車登山口、住吉村迄乗合自動車の便がある)



黒髮山……女性的な名を持つ靈峯黒髮山は  
全山鬱蒼とした樹木が生ひ茂りその姿は恰か  
も乙女の黒髪をたれた様な翠綠を湛えてゐる  
神代時代からの幾多の神秘的な傳説に富む靈  
山の頂上には郷社黒髮神社がある。今を去る  
二千百余年前、崇神天皇十六年の建立で朝廷  
から權現の尊號を賜つた山緒ある靈峯で、全  
山奇勝佳景に富み「天龍岩」「雄岩、雌岩」

「龍門」「日輪峯」「見歸峰」「大造落」「目一つ坊」「乳待坊」「重岩」等を初めとして全山到る所に絶  
崖の奇勝、深谷幽渓の仙境が點在してゐるが、源爲朝が大蛇退治したのはこの黒髮山と傳えられ、雄  
岩、雌岩の戀物語等の神話に等しい傳説は黒髮山が持つ傳説の内で著名なものである。

黒髮山はこうした幾多のローマンチックな傳説に富む靈峯であるが、また九州及び本邦植物分布學上から見ても一

大寶庫として専門家の間に重視されてゐる。それは「コガネシダ」「ハイゼキショウ」「イブキジヤカワサウ」「カキ  
カヅラ」等の特殊植物を初め集塊岩岡上には高原植物の群落があつて、さながら自然の大植物園を形成し、花期には文字通り百花競麗の美觀を呈してゐる。古くから石榴花が多く、海濱性の植物も各所に散在してゐる。「カネコ  
シダ」は「羊齒」の一種で昭和二年四月天然記念物に指定された。

有田焼の窯元 古來から有田焼（伊萬里焼）の名を以つて全國的に有名な陶器の窯元は有田町（長  
崎線上に有田、又は有田驛で下車）を中心として曲川村、大河内村等にある、柿右衛門焼（曲川村）香蘭  
社、深川製磁（有田町）鍋島侯爵家御用窯（大川内村）今右衛門焼（有田町赤繪）等の窯で製造される  
陶器は内地及び歐米を販路としてゐるが有田村では毎年五月一日から七日間陶器市を開催して有田焼  
の眞價を廣く衆知せしめる事に努力してゐるが毎年盛況を極め顧客は九州一圓を初め、京阪地方の卸  
筋が押しかけて非常な景氣を見せてゐる。

陶祖李參平の碑 有田町蓮華石上有田焼の始祖李參平の碑がある。豊太閽征韓の際舊藩主鍋島直茂公出征し慶  
長三年凱旋の時多くの陶工を伴れ歸つて領内で製陶せしめたのが有田焼の始まりで李參平、宗傳、金氏の三人は代

表的人物で寛永年間に泉山磁磚を發見して有田焼の素地を作るに至つた。有田陶業者は此の有田焼の始祖李參平の三百年祭を機會に大正五年「陶祖李氏領德會」を結成し今會の事業として同七年五月記念碑を建設した。

### 伊萬里町

(唐津より北鐵の便あり長崎線有田驛乗替  
いに、有田伊萬里間乗合自動車の便あり)

佐賀縣の西北部、長崎縣に境して舊藩時代から佐賀藩西部の商業都市として知られ玄海灘に面して、京阪地方との商取引上の良港で、近郷に産する陶磁器有田焼は主として伊萬里港から輸出された爲め、現在に至るも伊萬焼の稱がある程で、佐賀郡早津江と共に御船城が置かれ灣の内外にはしばく、漁船が游弋してゐた。近郷製茶業が盛で精茶の品質向上發展を圖り毎年新茶頃「茶の市」を開催してゐる。

セツ島 || 伊万里灣の東南部の海上に散在してゐる大小の諸島で、波静かな灣内に十幾つかの小島が點々として散在し、其姿が駆けたり、牛が臥せたりした様な形の面白さは風雅な趣きを見せ、全山青々と茂った老松、稚松がうねる様に懸崖に垂れ下つたりして青盤を敷きつめた様な海水とその翠綠を競ふてゐる。岩高く、砂白

く風光絶佳伊萬里松島の稱があり。春から夏へかけこのあたりの島めぐり、潮子狩は絶好の遊覽地である。

松浦富士 || 西松浦郡二里、大河内、大坪の三村に跨り腰岳と云ふ山容秀麗、山頂に巨大な白岩があつて遠くから見ると恰かも積む雪の様で、その姿が富士山に似てゐるので「松浦富士」の名

稱がある。

### 嬉野温泉

(佐世保線武雄下車、武雄、鹿島  
瀬より乗合自動車の便がある)

嬉野温泉は長崎へ通じる國道に添ふて山青く水清い純朴

な感じを與える山の懷に抱かれた温泉街で、その古長崎からの上り下りに必ずこの道を往來したものである。口碑に神宮功宮三韓征伐の御歸途發見されたと傳えられてゐる。



山紫に水清い氣持よい温泉の街で木の芽薰る初夏の頃茶摘唄の聲も流れて茶所温泉、山の湯の床しさは仙境に遊ぶ様な心持がして落ついた氣分のなかにひたる事が出来俗化しきらない温泉情緒は嬉野の特徴である。附近の山に川に嬉野八景の名勝がある「瑞光寺の晚鐘」「權現淵の朝霧」「嬉野橋の夕涼」「鳥帽子岩の螢」「轟淵の白瀧」「不動山の茶摘」「立岩山の秋の月」「權現淵の朝霧」「臥龍松の夜雨」等がそれで四季それ／＼の景趣があり。初春の頃から初夏螢の頃、秋の紅葉の頃等は川の流れに添ふ温泉場一帯の眺望は一福の繪巻物である。

**大草野の螢** 塙田町大草野を中心に、洞林庵、嬉野温泉、湯の田、鳥帽子岩、椿山のあたり塙田川畔一帯の地は佐賀縣下唯一の螢の名所で殊に螢の大きいので知られ、悉くが源氏螢で身長五分以上のが多い、從つて光芒も大きい茶摘み唄の聲にすが／＼しい初夏が訪れ鮮綠したゝる頃の夜塙田川の一帯には暗を縫ふて點綴される螢火、岸に、川に、叢に螢狩の湯治客や附近の人で満されえも云はれぬ壯觀を呈する。此の地一帯の螢は天然記念物として内務省から指定されてゐる。

**嬉野茶園** 嬉野は又茶の產地として知られてゐる 今を去る四百餘年前、御柏原天皇御宇、明人紅令民と

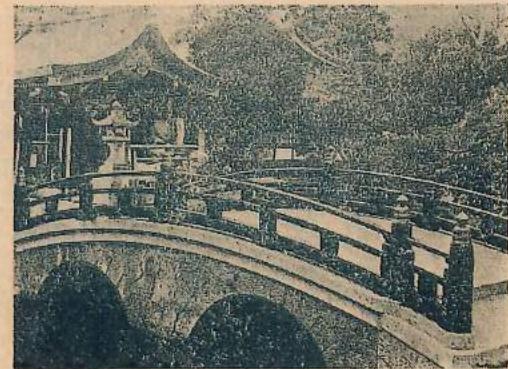
云ふ者が南京茶を持つて來て嬉野の地を選んで、唐製茶を試みたのが創りで其後慶長年間肥前白石郷吉村新兵衛が此の地に茶園を拓いたのが今日の嬉野茶の基礎を築いた。獨特の芳烈な香と感じの軟かな味とは嬉野茶の特質である。販路は内地は勿論、支那、滿洲、ロシヤ、蒙古等である。嬉野町附近五ヶ町村に亘つて全山若葉青葉が眼にしめる初夏の頃茶畠に老若男女が茶摘してゐる風景は一つの田園詩である。

### 祐德稻荷神社

（長崎本線 肥前濱驛、又は肥前鹿島驛下車）  
（佐賀、武雄、嬉野より乗合自動車の便あり）

日本三稻荷神社の一つとして東に京都郊外の「伏見稻荷」西に「肥前國祐德稻荷」と並び稱せられ五拾萬の固定信者を有してゐる祐德神社の祭神は、倉稻魂神・大宮賣神・猿田彦神・古枝村にある東山天皇の御宇貞享四年舊鹿島藩主鍋島直朝の室萬子の御方が、鍋島家に御輿入れの際御里方花山院家の邸内に祀つてあつた稻荷社の分靈を遷し來つて祀つた社で、更に伊勢外宮の大宮賣神・猿田彦神の神靈をも合祀したもので、古來鍋島家の尊信も非常に深く靈験著しく幾多の傳説を持つ神社として士民崇敬的となつてゐた。今も俗に『祐德院さん』と呼ばれ九州一圓を初め遠く中國・四國地方に迄

及んで信者を有し日々參詣者の絶ゆる時がない、賽者の數は福岡縣一日市大宰府天滿宮につぐと云はれ明治十二年縣社に列せられた。昭和八年二月社殿の改築が竣工してからは「九州日光」の稱があり社殿豪莊を極め、古代建築藝術の粹を網羅して新築した社殿の豪華絢爛たる人工の美は背後の綠翠したゝる自然の美と融合して深嚴な神域を形造り加ふるに神社境内的廣潤なる事は又一層の莊嚴さを加えてゐる。



祐徳稻荷神社

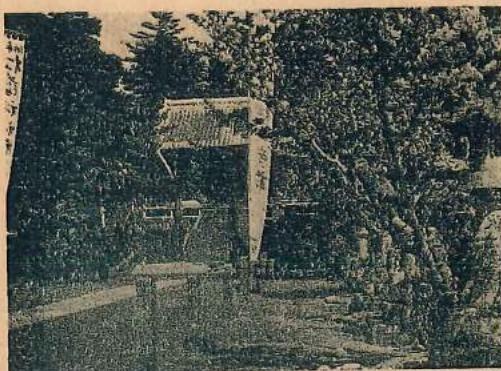
旭ヶ岡公園 || (長崎線鹿島驛下車、佐賀・武雄・嬉野より  
乗合自動車の便あり) 鹿島町大字高津原にあり、歴代の舊

藩主を祀つた松陰神社境内及び其附近一帯の高台で別名を「松陰公園」とも稱してゐる。九州に於ける桜の名所で古木の多く樹齡五十餘年を経たものが多く廻

り一丈に餘る巨幹と數千株の若木が枝を交えて數町に亘る花のトンネルを成し、或は一日千本の廣場があり、舊鹿島城址の内輪外廓の、もの鏽た中に散在する櫻は老松、古柏の翠綠に相映じて錦織り出せる典雅な美觀はえも云はれない旭ヶ岡の前方遠く開けて有明海に臨み白帆の去來・秀峯多良・雲仙の山々を見渡す風光の絶佳は他に求められぬ趣がある。

多良嶽 (長崎線多良・湯江兩驛下車)

多良嶽は佐賀縣の南端多良村と長崎縣北高來郡湯江村、東彼杵郡壹瀬村とに跨り九百八十三米、脊振、天山に次く縣下の高山で、縣下の高峯經ヶ嶽に連り普通之等の連峯を總稱して多良嶽と呼んでゐる。火山であるが現在は活動を中止して多くの年月を経てゐるので全く其原



... 67 ...

型をすら止めない。山容秀麗秋は全山の落葉樹の悉くが黄紅、母緒の色もとりくに錦繡を織り出した造化の神の巧みな風光の美觀は豪華絢爛たる一幅の雄大な藝術的繪卷物で、前に有明の海を眺め遠のく雲仙の秀峯、肥後の靈峯阿蘇の山々を眺めた風光の美觀はえも云はれない。又初夏鮮綠の頃全山の翠綠に交つて咲き亂れる石榴花にも一段の風情があり其景觀の妙は言語に絶してゐる。

## 名産と名物

銘

酒 || 佐賀市を中心として名産と名物の中では先づ何んと云つても酒と古い傳統的な歴史を持つ有田焼であらう……佐賀市に於ける酒の醸造販賣店は

▲ 窓の梅

|| 窓の梅酒造株式會社佐賀郡久保田村にて醸造吳服町窓の梅食料品店で販賣してゐる。電話一〇四番

▲ 米

綠 || 中島酒造場佐賀市材木町及び高木瀬村分工場で醸造し材木町で販賣してゐる。電話三二三番

▲ 梅

梅 || 塚原酒造場佐賀市八戸町で醸造販賣してゐる。電話一八番 ▲ 實 力 || 多布施町木下嘉太郎（板屋酒造場）で醸造販賣してゐる。電話四二番 ▲ 玉の井 || 石橋酒造場佐賀市白山町で醸造販賣してゐる。

電話三三〇番 ▲ ノ 繩

|| 北島酒店佐賀市西魚町で醸造販賣してゐる。電話二一四番

陶器類 || 傳統三百年の昔から高級な陶器として一般から愛用されてゐる。陶器類は今も昔に變りなく高級な陶器として日本全國に販路を開拓してゐる。有田焼の裝身具は近來時代裝身具界の寵兒として中央にも認められてゐる。佐賀市に於ける陶器販賣店は

▲ 深川製陶佐賀支店（馬賣馬場角） ▲ 香蘭社佐賀支店（吳服町） ▲ 彩壺堂（元町）以上は何れも有田町附近に自家用の窯を有してゐる。其他の販賣店は ▲ 有田屋陶器店（吳服町） 竹下商店（白山町）

海產物加工品 || かに漬 ▲ たいらぎ粕漬 ▲ たいらぎ罐詰 ▲ 海芋粕漬 ▲ 牡蠣粕漬 ▲ 牡蠣鹽干

▲ すりゑび ▲ むつごろう罐詰 ▲ あみ漬

菓子類 ▲ 丸房露 || 白山町 北島菓子舗 || 八丁馬場 鶴屋菓子舗等が有名である。▲ 逸香

口 || 元町 噠菓子舗 || 白山町 北島菓子舗 || 八丁馬場 鶴屋菓子舗 ▲ 美羹 || 吳服町 小城屋 || 白

山町 北島菓子舗 || 八丁馬場 鶴屋菓子舗 || 白山町 佐賀屋 || 松原神社前 不二屋菓子舗 || 窓の梅食料品部

▲ かちからす卵 || 松原神社前 不二屋菓子舗 ▲ ノンキ || 縣廳通野田菓子舗 || 松原神社前 タケ

菱人形 || 佐賀の名物菱の實で人形を作つてゐる 近年菱人形は高級な郷土人形として愛用され元町影  
董堂で販賣してゐる。

## △有明海牡蠣 △牡蠣のボイル

柿 ▲ 乾柿 || 佐賀縣下一圓に産する美味で大きいので賞美されてゐる。

鍋島綾通 || 上流家庭の客間の敷物として一般から認められてゐる。

佐賀錦 || 鹿島に於いて織られてゐるが、精巧な織物で袋物其他高級な女持物用に使はれてゐる典雅な  
織物である。

## 娛樂機關

映画常設館

▲ 宇宙館 || 松竹・P・C・L映画上映

白山町

▲ 朝日館 || 日活・千恵藏映画上映

水ヶ江新道

▲ 日ノ出館 || 新興映画上映

伊勢屋町

▲ 昭和館 || 極東・大都映画上映

新馬場

劇場

▲ 佐賀劇場

材木町一ノ橋  
與賀町

▲ 喜樂座

券番と遊廊

東券番は芦町にある。普通佐賀券番と稱してゐる。百二十余名の藝妓を擁して飯賑を極めてゐるが人情に厚く純朴な點に於いて旅の人々へも非常に評判がよい。

▲ 糸代 || 一本十三錢 ▲ 一時間壹圓(遊興税共に)

▲ 受持 || 三時間 || 四圓四十三錢(遊興税共) ▲ 普通貴ひ七本増加 || 稅金共に壹圓 ▲ 特別貴ひ二  
十四本増加 || 税金共に三圓四十三錢増加 ▲ 夜明線香午前一時より七時迄四十本税金共五圓七十二錢

西券番

市の西方伊勢屋町にある藝者の數は二十余名であるが西部地方では相當賑つてゐる。糸代は大

体東券番に變りないが夜明線番は午前一時から七時迄で三十本（四圓二十九錢稅金共）になつてゐる。

### 花園遊廓

一般には「今宿遊廓」と稱してゐる。佐賀市東南國鐵佐賀線の沿線にあり不夜城の廓は十數

軒のきを並べて繁昌をしてゐる。

▲娼妓の玉代＝午後六時より翌朝八時迄金參圓八十五錢（遊興稅共に）△臺付時間前に同じ金五圓五十錢

（遊興稅共に）△晝間は午前九時から午後六時迄玉代は夜間に同じ

▲藝者一時間金壹圓拾錢（遊興稅共に）△壹時間四本壹本貳拾五錢 △貴ひ一回に付き壹本（金貳拾五錢）増し

（丸吉樓調べ）

### 旅館と料亭

旅館 佐賀市内の著名な旅館は大略左に掲げる様な旅館である

旅館名	所在地	電話番號
曙旅館	八幡小路	電話一、三四四五番
榮徳屋旅館	白山町	電話一二〇番
松本屋旅館	新馬場	電話一三二番
松川屋旅館	全 縣廳通り	電話一三八番
鶴屋旅館	白山町	電話一二三番
三榮旅館	電 話	一、二九四番
松陰旅館	電 話	二二一一番
荒木屋旅館	電 話	一三九番
井徳屋旅館	電 話	一六九番
全		

▲特等金七圓 ▲一等金五圓 ▲普通金三圓五十錢 —— 金三圓位迄 ▲普通より下は二圓五十錢以

下旅客の希望に添ふ様つとめてゐる

▲團体旅行の宿泊については特別の便宜を圖り希望に應じてゐる

▲團体旅行者のため旅館の交渉斡旋には佐賀市白山町佐賀市旅館業組合（鶴屋旅館内電話一二三番）又は佐賀縣旅客係（電話二九番）佐賀市役所内佐賀市觀光協會（電話二番・六〇〇番）で行つてゐるので遠慮なく申し出を願ひます。

料亭名 所在地 電話番號 備考

料亭 || 佐賀市の料亭は大体に於いて構えが大きく落付いてゐる。それは土地が自由に得られる點にあるが、市の料亭は何れも他の都市の料亭の様にケバ／＼しさはないが滋味と落付を見せてゐる。主なる料亭を擧ぐる時は左の通りである。楊柳亭・清連亭・小町等は川上に別荘がある。

料亭名 所在地 電話番號 備考

とめてゐる

いては特別の便宜を圖り希望に應じてゐる

ため旅宿の交渉斡旋には佐賀市白山町佐賀市旅館業組合（鶴屋旅館内電話一二三番）又は佐賀

（電話二九番）佐賀市役所内佐賀市觀光協會（電話二番・六〇〇番）で行つてゐるので遠慮なく申  
き願ひます。

## 料

亭△佐賀市の料亭は大体に於いて構えが大きく落付いてゐる。それは土地が自由に得  
られる點にあるが、市の料亭は何れも他の都市の料亭の様にケバ／＼しさはないが滋味と落付を見  
せてゐる。主なる料亭を擧ぐる時は左の通りである。楊柳亭・清蓮亭・小町等は川上に別荘がある。

料亭名 所在地 電話番號 備考

佐賀料亭

楊柳亭	柳町	電話	五一四六〇番	普通料理
裏門		電話	六九三九二番	全
全門		電話	一七〇番	全
裏門		電話	三六九番	全
松原通り		電話	一四一九番	全
片田江	通り小路	電話	一六二番	全
通り小路		電話	六八二番	うなぎ・川魚料理
新馬場	松原通り	電話	五三六番	しつぽく料理
新馬場	松原通り	電話	一一二番	
新馬場	(銅像閣内)	電話	一一八番	
新馬場	(馬賣馬場)	電話	一一七〇番	

食

春陽軒	(新馬場)	電話一一三番
白山莊	(白山町)	電話一一九番
サロン美人座	(御幸橋)	電話七五五番
瑠璃松竹食堂	(吳服町)	電話一〇九八番
ともい食堂	(夕日町)	電話四一四番
王屋達堂	(佐賀駅前)	電話二〇三二番



...76...

### 佐賀宣傳小唄

- 原田謙吉作詞  
江口波詩作曲
- 新民謡 葉隱行進曲
- 一、薰る樟樹 樟の木  
葉隱の庵に  
忍ふ老士の  
尊い垂訓
- 道を開きし 四齋願
- 今も承け継ぐ 佐賀藩論語
- 見よや葉隱 教へは長し
- 二、昔捕の葉 染ぬた佐賀よ
- 江藤 利島 大隈侯の
- 自由民權 旗どころ
- 三、薰るわが郷 薰るわが郷  
輝やく譽 雄々し丈夫 肉彈江下
- 死して惜しまる 古賀大佐  
仰げ血染めの わが聯隊旗
- 見よや葉隱 血潮は燃ゆる
- 四、祀る祖先は 松原神社  
割つて見せたや 鍋島氣質  
負けじ魂 热と意氣  
鍊ひうけつぐ 武士氣性  
見よや葉隱 われらの意氣を

...77...

五、立てし勲は 千歳に蒸る

武藤元帥 武人の鑑

死して生たる 空閑少佐

空に一聲啼く 勝鳥

見よや葉隱

氣慨は躍る

津原政二郎作詩  
古闇翁作曲

新民謡 佐賀はよいとこ

～佐賀はよいとこ 城下町

浦の青葉も そよそよと

エー暮れりや白山 人通り

灯る鈴蘭 花の町

ホントニ ヨカナイ ヨカトコロ

虹の松原 白砂に

誰を待つか 紅草履

エー懸の領布振 望夫石

鳴くは千鳥か 佐用姫か

ホントニ ヨカナイ ヨカトコロ

花は桜木 小城の里

咲いて霞の 櫻岡

エーお茶は嬉野 茶摘み唄

茶飲み茶わんは 有田焼

ホントニ ヨカナイ ヨカトコロ

忍ぶ湯の町 武雄町

此の世後生樂 蓬萊境

エー行こか神徳 稲荷さま

結ぶ縁は 神だのみ

ホントニ ヨカナイ ヨカトコロ

花は神野か多布施の堤

舟で遊ばうか芝生にねようか

さくら木に咲く水に咲く

サツサイヤサカ水に咲く

行かうか今宿精靈ながし

宵の堀端花火かエロか

どうせ納涼のながれ星

サツサイヤサカ流れ星

むかし葉がくれ白蓮の花

今はお濠のボートの波に

映るモダンの新市麗

サツサイヤサカ新市麗

中島袁浪作  
鳥取春闌曲

新民謡 佐賀小唄

エー浮いて流れりや 神野茶屋

水に螢が 身を焦がす

ホントニ ヨカナイ ヨカトコロ

水郷川上 夕涼み  
紅い雪洞 屋形船

エー暮れりや白山 人通り

ホントニ ヨカナイ ヨカトコロ

花は神野か多布施の堤

舟で遊ばうか芝生にねようか

さくら木に咲く水に咲く

サツサイヤサカ水に咲く

行かうか今宿精靈ながし

宵の堀端花火かエロか

どうせ納涼のながれ星

サツサイヤサカ流れ星

むかし葉がくれ白蓮の花

今はお濠のボートの波に

映るモダンの新市麗

サツサイヤサカ新市麗

灯る鈴蘭白山通

誰か待つやうな元町ゆけば

ジヤズが身にしむしみじみと

サツサイヤサカしみじみと

黒木 嘉作詩

井田一郎作曲

新民謡 佐賀行進曲

桔の若葉に昔の夢が

思い出される佐賀城址

今じやゆかしい葉隱武士の

赤い血潮が燃へてゐる

水は川上 櫻は神野

夏は多布施の舟遊び

ふつとみそめた娘の肩に

憎くや壁が飛んで来る

モダン 白山鈴蘭燈の

影に嬉しいランデブウ

何處に行かうかシネマへ行かうか

宵の元町あの男服間

ジヤズとウインで夜が更ける

更けりや夜風にネオンの色も

あせてさびしいアスファルト

お堀蓮の葉ボートが揺れる

夏は堀端人の波

そぞろ歩きは松原神社

戀しお方と二人連れ

映る灯かげは江湖端通り

戀の今宿 背のくち

三味や大鼓のあのさざめきに

更けて真赤な月が出る

名佐 仙賀 梅 岸 シ

しわはよれどもアノ梅子は……台……  
色けはなれぬ スイなやつ  
何をくよ／＼川端螢……台……

名佐 賀 薩 球 遊 節

どこのはづみで 消へたやら  
誰か來たそな堀根の外に……台……

泣いた鈴生音をやめた

わたしや青梅ゆり落されて……台……

しそと馴染んで赤くなる

一で白かのは豆腐に板雪源氏の白旗  
横町の角の白壁に女中さんの内ももど  
一で赤かのは法院さんの衣  
お稚荷さんの鳥居か  
朱か紅かお猿さんのお尻か須海老のいで聲か

蓮の池の在矣（じよご）へんから翻つけ着物（きもの）に

小倉の帶ばしめ 頤正寺（みやこ）參りす（へりす）とときや

チヨードさいば藁人影

マーア ソンヂヤロ／＼

一、裏の小溝から どじようバシ 出タカン

蛇（じや）が出たじやげなの

ソリヤマタ ナンチユウ

ヒエマキ村ノ 善定院チユウ

佛說盲目（ぼつせつめいもく）バ 頭から尻マデ

ズーグラズ—ツテ 吞ミバシ

シヨツタ チユウカシノ—

ナンノコナタア

蛇（じや）こだ蛇けれど トコドツコイ

うそぢやげなノウ アラヨ—

マーア ソンヂヤロ／＼

佐賀の高い山

一、高い山から ドコバシ 見タカン

谷底見ればの ソリヤマタ ナンチユウ

柿ノ木イ ボ—ブナバシ ナツテオイバシ

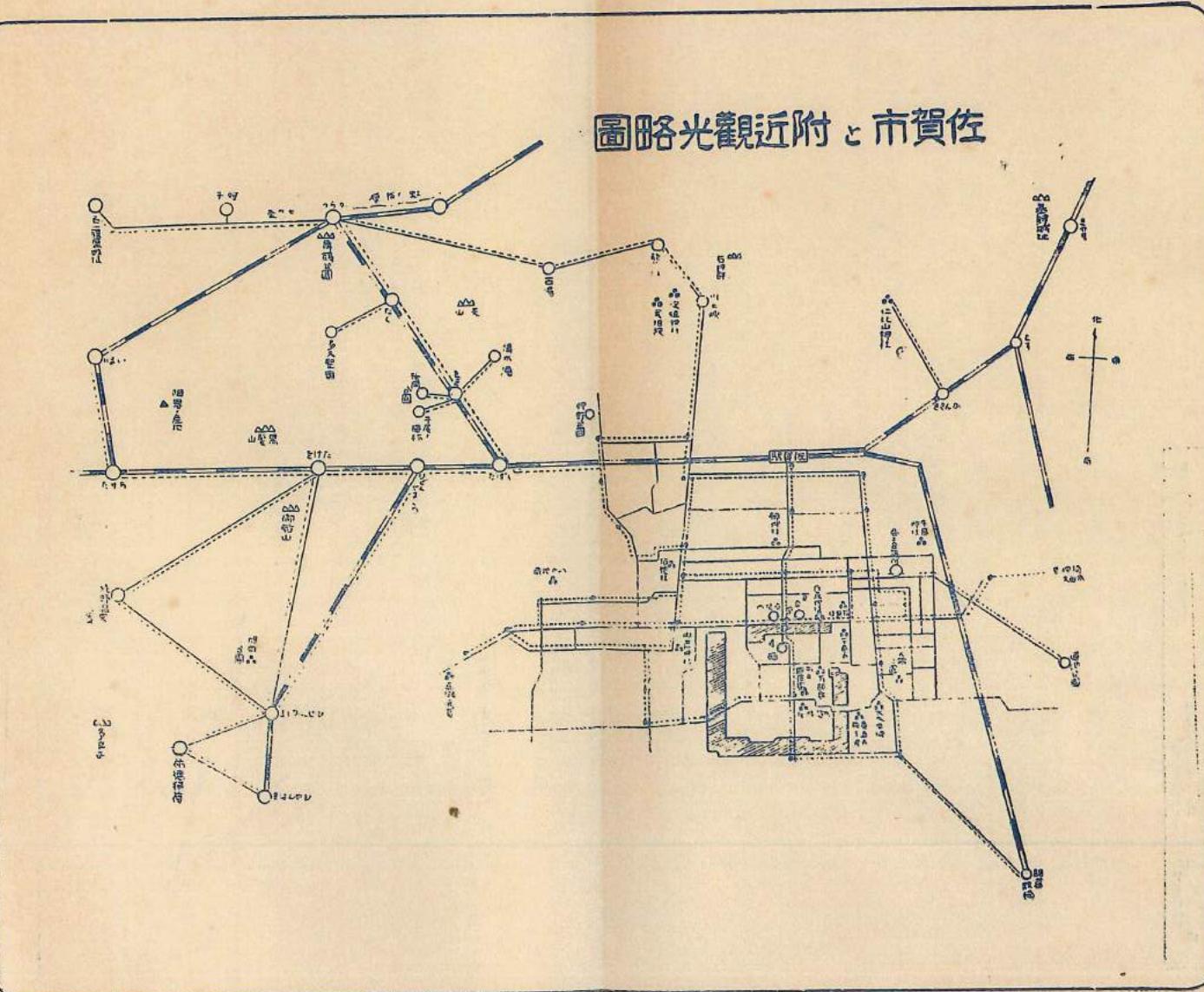
シバシ シトツタチウカシノ—

ナンノ コナタア

瓜（うり）や茄子（なすび）の トコドツコイ

花ざかいの アラヨ—

# 圖略光觀近附と市賀佐



シバシ シトツタチウカンノ  
ナンノ コナタア  
トコドツコイ  
花さかいの アラヨー

うそぢやげなノウ アラヨー

マーア ソンデヤロく

昭和十一年十月二十一日發行

発行所 佐賀市觀光協會

書名 佐賀市觀光指南  
著者 佐賀市觀光委員會  
原口 弘文堂印刷所